

山 嶽 寮

甲南山岳会通信 第74号

2019年10月

甲南山岳部・甲南山岳会

山行・紀行

アイスランドの山旅 2018年8月13日～23日 ロイガヴェーク	山本恵昭	 2
5月の立山三山巡り	川野幸彦	 10
定年退職記念登山 山スキー山行2つ	山本恵昭	 12

随 想

甲南学園の大学生活を思い出して	鈴木頼正	 17
八幡梅仙寺墓地にて	泉 清司	 18
御山谷沢登りに思う身体機能の衰え	大森雅宏	 19

追 悼

小川守正先輩のこと	鈴木頼正	 23
追悼	武田雄三	 24
小川守正さんを偲ぶ会に思う	大森雅宏	 27
山岳雑誌「山小屋」 小川さんの寄稿文		 28
訃報 追憶 伊藤五介さんのこと	越田和男	 32
平井吉夫の思い出	廣瀬健三	 33

会員短信

(構成) 井上知三	
総会・慰霊祭への出欠はがきから	 35

報 告

秋の集会	渋谷一正	 43
定時総会	井上知三	 44
慰 霊 祭	松下哲夫	 46

ホームページから

掲示板書き込みダイジェスト	(構成) 大森雅宏	
山行と集い その他もまとめて一括掲載		 47

編集後記に代えて

寄稿のお願い	塩崎将美	 64
--------	------	----------

アイスランドの山旅 2018年8月13日～23日 ロイガヴェーグル

山本恵昭 (昭 56 理)

アイスランドのロングトレール、ロイガヴェーグルに妻と行ってきました。日本ではあまり知られていないようですが、欧米のトレッカーの間ではとても有名で一度は行ってみたい憧れの地とのこと。進むにつれて次々と変化する景観とその美しさは想像を絶し、言葉に表すことも写真で表現することもできず、山の中でただ茫然と立ち尽くすこと度々でした。

8月13日 関空発、ルフトハンザ航空でフランクフルト空港へ。アイスランド航空に乗り換えて、深夜にケフラヴィーク国際空港に到着。そのまま空港で仮眠する。床に銀マットを敷いて寝ていると、ガードマンに起こされる。シート類を敷くのは禁止とのことで、寝にくいベンチへ移動する。

・レイキャビック → ロイガヴェーグル

14日 朝、バスで首都レイキャビックのキャンプ場へ。アイスランドでは、ホテルがとても高い。バックパッカー向けのベッド使用だけでも一人5000円ほどかかりたりする。これでは予算オーバーとなるので、今回の旅は山でも町でも、オールテント泊(空港ではベンチ泊)の予定である。キャンプ文化が発達していて、町々に立派なキャンプ場が用意されている。ここレイキャビックでは、総合運動公園のような所の一部が立派なキャンプ場になっている。トイレ、温水シャワー完備はもちろんのこと、キッチンには電磁調理器で、鍋やフライパン、調味料なども置いてあり自由に使うことができる。食堂スペースには何か所もの充電用コンセントといろいろな本。キャンパーが欲しいものが揃っている。そして、何と言っても最大の魅力は、旅を終えたキャンパーが不要物を置いていくスワップコーナーがあること。事前情報通り、ガスカートリッジやいくつかの食料を買わずに手に入れることができた。靴や寝袋まで置いてある。今日はここでキャンプするつもりで受付のお姉さんと話をしていると、午

後の登山口行きバスにまだ間に合うとのこと。山で使うドライフーズなどの主な食料は、日本から持ってきているし、現地で購入予定のものはスワップコーナーで手に入れることができた。それならと、今日のうちに登山口のランドマンナロイガルまで行くことにする。

バスは荒涼とした火山地帯の未舗装路を走り、夕方にランドマンナロイガルにたどり着いた。広い河原に作られたキャンプ場は30張ほどの大賑わい。もちろんシャワー完備。食堂スペースには、木のテーブルとベンチ、そして、雨が多いのでビニールハウスのようなシェルターがついている。蛇口からは、温泉で温めたお湯も出るので便利。隣に座った女子2人組がラーメンと作ろうとしているが、ガスバーナーの使い方がわからずに困っているようす。彼女たちが話しているアイスランド語はさっぱりわからないが、片言の英語でなんとか使い方を説明することができた。底抜けに明るい地元の高校生だった。

ここの魅力は、何と言っても温泉。川沿いの木道の向こうに湯気と人だかりが見える。早速テントで水着に着替えて、そちらに向かう。木道の先には、脱いだものをかけるだけの更衣スペース。階段を降りて川に入る。川の水は冷たいが横からの小さな滝は熱湯で、ちょうど良い混ざり加減の所に人が集まる。各国の老若男女20人ほどと混浴。熱くなってくると、冷たい川の方へ行って体を冷やす。そして、またお湯の所へ戻る。ぐるぐると、お互い譲り合ってゆっくり移動しているのが面白い。

15日 朝から雨であるが、雨具を着て9:15出発。ロイガヴェーグルの道に入ると意外と人が少ない。皆がロングトレールに行くわけではなく、ここをベースに色々な日帰りトレールに行く人も多いようだ。

溶岩がゴツゴツ積み重なった丘を越えると、地面のあちこちから蒸気とガスが噴き出している地熱

地帯。一定の時間間隔で1mほど吹き上がる間欠泉もある。あいにく、天気が悪いので展望はなし。砂地の丘を登っていくと雪原が現れる。やがて茶色だった地面が黒色に変わる。岩をよく見るとすべて黒曜石で、雨に濡れた岩肌が宝石のように輝いて美しい。角がガラスのように鋭利なので、躓いてこけないように注意して歩く。もうひと山登り終えると、フラプティンヌスケルのキャンプ場に 13:15 到着。風が吹き抜ける場所のようで、黒曜石を積んで風よけの石囲いにしてある。

16 日 この時期、白夜ではないが、朝4時頃から夜 10 時頃まで明るい。5時頃起きると晴れているので、朝食前に近くの山に一人で登ってみる。地図に名前が載っているが、アイスランド語表記で何と読むのかわからない。瓦礫の中の踏み跡を辿って山頂に着くと、昨日越えてきた山なみが見える。周囲には氷床をまとった山々。振り返ると、今日進むべき方向がはるか遠くまで見渡せる。

荷物をまとめて、7:25 キャンプ場を出発。氷河や砂の丘を越えて歩みを進める。黒い岩山を越えると、遠くに今日のキャンプ予定地のアルフトヴァトンがある湖が見える。一気に下り、地衣類やコケで覆われた緑の丘を進む。12:00 アルフトヴァトン小屋のベンチで昼食。スワップコーナーでブロッコリースープをゲット。まだ時刻が早いので、次のヴァンギルまで行くことにする。丘を一つ越え、脛ほどの深さの川を登山靴からサンダルに履き替えて渡渉。ホーストレッキング隊がすれ違う。人を乗せている10頭ほどと裸馬20頭ほどが、隊列を組んで壮観である。

ヴァンギルは、山に囲まれた谷あいにある美しいキャンプ場である。広々としていい雰囲気だなと思いながら、手続きをして大きな岩の間にテントを設営する 14:30。しかし、のんびりしていると、天気の良いうちにもっと先へ進む方が良いかと思い始める。せっかく建てたテントをたたみ、キャンプ代を払い戻してもらって、さらに先に進む 15:00。受付の夫婦は嫌がる顔もせず、次の渡渉地点の注意事項を丁寧に説明してくれた。

次の渡渉は、結構川幅が広い。対岸から渡り終えていた長身の白人男性に深さを訪ねると膝位とのこと。あなたの膝ということは、私の股近くでしょう。私は靴もズボンも脱いで、下半身パンイチで渡渉。妻は私の温泉水着を履いて渡渉。

そこから先は、広い火山灰台地となる。乾燥して埃っぽい中をひたすら忍耐の歩行であるが、林立する火山の造形は絶品。歩くのに飽きたころ、ボトナルのキャンプ場に 18:45 到着。11時間を超える行動であるにもかかわらず、興奮してアドレナリンが出すぎているのか不思議と元気。

17 日 7:00 発、丘を下っていくと、左の大きな氷床を持った山からの激流に橋が架かっている。対岸へ渡ると火山灰の河岸段丘。下るにつれて、草や灌木が現れ、次第に背丈が高くなっていく。放牧の羊が点々と草を食んでいる。ライチョウの親子が道端で餌を食む。遠くに口を開いた魚の頭のような岩山が見える。自然の造形の不思議。11:30 氷河解けの茶色く濁った川を渡渉。脛ほどの深さであるが、水温が低く川幅があるので足がしびれるように痛い。

北極白樺の丘に登る。今までの火山灰台地から緑の森に入ると、なんだかとても癒された気持ちになるのが不思議。森を越えて少し下ると、ゴールのスルスモルク小屋に 12:20 到着。芝生のベンチでラーメンの昼食。14:05 のバスでレイキャビックのキャンプ場に戻る。

基本的に雨の日が多く、晴れていても急に雲が現れて時雨が降るといった極北の変わりやすい天気。ロイガヴェーグルは3泊4日でトレースすることが多いようですが、好天のタイミングを利用して2泊3日で行動しました。あまり疲れを感じなかったのは、やはりその景観が素晴らしかったからでしょう。

・レイキャビックキャンプ場

17 日夕方、山からレイキャビックのキャンプ場に戻り、スーパーで買い物をして夕食。下山祝いに豪華な夕食といきたいところであるが、アイスランドは物価が高く、日本の2倍くらい。リーズナブ

ルなのは、ブルーベリーと温泉の熱で作ったトマトぐらい。ささやかにウインナーを湯がいて、ビールで祝杯。そして、シャワーと洗濯三昧。

明日からレンタカーを借りようと、スマホの予約サイトで試みるがうまくいかない。まあ明日にでも、と思ったのが甘かった。

18日 朝、スワップコーナーを物色していると、余り食料を置きに来たおじさんが、「You are lucky!」と言いながら、クーラーボックスの中からスパークリングワインを取り出して手渡してくれた。こんな幸運もあるのだと驚いた。これがこの日の運を使い果たしたのだとも知らずに。

さて、昨日の続きでレンタカーを借りようと予約サイトを色々試みるが全くダメ。それではと、歩いて周辺のレンタカー屋を次々訪ねてみるが、予約がないと無理と断られる。この金土日が最もハイシーズンのようだ。

「No car.」と言われ続け、意気消沈してキャンプ場へ戻る。キャンプ場の受付のお姉さんにヘルプを頼むと、パソコンで調べてくれて車がある予約サイトを教えてくれた。でも、自分のスマホで試みるとうまくいかない。丸1日レンタカー予約失敗で無駄に過ごし、ヤケ気味に。夕食は、憂さ晴らしに高価なラムチョップを買ってステーキ。もらったスパークリングワインをポンッと開けて気分一新。夕食後、再度予約を試みると、成功。明日の朝から車を借りていろいろな所を訪れることにする。

・新しい大地のできところ

シンクヴェトリル国立公園、ヘイマイ島

日本もアイスランドも火山の国であるが、その仕組みは全く異なる。日本付近は、太平洋プレートとユーラシアプレート・北アメリカプレートがぶつかって、地球内部へ沈むところ。プレートの消滅地点である。それに対して、アイスランドは大西洋中央海嶺が地上へ現れた場所で、マントル対流の上昇地点。地表が左右に引き裂かれて北アメリカプレートとユーラシアプレートができる。新しいプレート誕生の場所である。そのような地球の息吹を感じる場所をいくつか訪れてみた。

19日 9時にヨーロッパカーの事務所に車を受け取りに行く。アイスランドには、一般道でも四輪駆動車専用の未舗装路があるそうだ。できればどこでも走れる四輪駆動車を借りたいところであるが、やはり割高。安いスズキの小さな車を借りる予定にして窓口に行くと、同じ費用でもう少し大きいKIIAという韓国製の高級車に変更してくれた。市内で運転練習し、左ハンドルの感覚をつかむ。

まずは、世界遺産のシンクヴェトリル国立公園へ。地球の割れ目と呼ばれる有名な観光地で、駐車場のあるこちら側が北アメリカプレート、大地溝帯である広い谷を隔てた向こう側がユーラシアプレート。岩盤が30mくらいの段差で沈み込み、その岩の割れ目を縫って周遊路が整備されている。

次に有名な間欠泉、ゲイシール。30人ほどがカメラを構え、次の間欠泉の吹き上がりを今か今かと待ち構えている様子が、何だか面白い。青い水溜まりの中に、吹き上がろうとした大きな白い泡の塊が見えた瞬間が美しい。その後、30mほどの高さまで熱湯が吹き上がり、また静寂に。

浸食されやすい火山台地と豊富な水によってできる滝巡りも面白い。グトルフォスの滝は水量が多く豪快。夕日に合わせてセーリャラントスフォスの滝へ。滝裏から見る夕日が美しい。この日は、滝の近くのキャンプ場でキャンプ。受付のお兄さんはフォークシンガーで、ギターを抱えて常連っぽいキャンパーとなんか歌っている。

20日 野生のパフィン(エトピリカ)という鳥を見に、アイスランド最南端のディルホラエイ岬へ。崖に張り付くようにとまっていて、時々飛び立っていく。泳ぐのは得意だそうだが、飛ぶには体が重そう。情けなさそうな顔と必死に羽ばたく姿がかわいい。灯台までハイキングしていると、途中から冷たい雨が降る。最果て気分満載。

船で世界遺産のヘイマイ島へ渡る。1973年の噴火で町の半分が埋まり、現代のボンペイと呼ばれている。時間が限られているので現地ツアーに参加。火口の地形を使ったコンサート会場やパフィンの生息場所、まだ暖かい火山の中腹、溶岩の流

れが手前で止まったラッキーハウスなどを見学。最後に、博物館で保護されたパフィンを肩に載せてもらって記念写真。

本島へ戻り、空港の近くのグリンダビックのキャンプ場へ車を走らせる。あまりの豪雨に TENT を張る気にならず、急遽ゲストハウスをスマホで予約。今回初の宿泊。近くにある、白い泥で有名なブルーラグーンという温泉に行く予定だったが、深夜も早朝も予約がいっぱいで諦める。やはり、我々は高級リゾートには縁がない。部屋で TENT や雨具を乾かし、洗濯三昧。夕食は自由に使えるキッチンで、山用の残りメシ。

・ちょっぴりドイツ観光

21 日 ゆっくり朝食を摂り、帰国準備。余裕をもってケフラビック空港のレンタカー事務所に車を返し、空港でゆっくり時間を過ごす。午後発、乗り換えのフランクフルト空港のベンチで 1 泊。ビールとソーセージが美味しい。

22 日 トランジットの時間に余裕があるので、フランクフルト市内で観光のため地下鉄で空港から市内へ向かう。自動販売機で切符を買うのに一苦労していると、気のいいおじさんが「それは長距離用の切符販売機。近距離用はこっちの販売機やで。グループチケットだとかどうのこうのと。早口で何だかよく聞き取れなかったが、二人で市内を往復するなら、そのたびに切符を買うより 1 日乗り放題のグループチケットの方が割安だよ、ということらしい。丁寧にホームまで案内してくれる。改札などなく、そのままホームへ。聞くところによると、時々切符のチェックに検札係がまわってくるらしい。ちょうどホームにきた電車で飛び乗って観光地図を見ながらくつろいでいると、数駅過ぎたところ、前に座っているパンク風の怖そうな兄ちゃんがなんやら話しかけてくる。なめられないように、こちらも強面を作って耳を傾けると、「フランクフルト市内に行くのかい」「それだったら、反対方向だよ」「次の駅で降りて反対のホームで乗り換えな」と。ガーン、ショック、そして、ダンケ。慌てて乗り換えて、なんとかフ

ランクフルト市街地へ到着して一安心。山では自然が行くべき道を導いてくれるが、町では人が頼り。みなさん親切で、感謝。レーマー広場を見学。道端で、楽器を弾く人、ジャグリングをする人など、大道芸人がいて面白い。粋な雰囲気オープンカフェでビールでも飲んでドイツ気分になりたいなと思いつつ、帰りの地下鉄が不安なので大人しく早々に空港に戻る。午後の関空便の待ち時間に、日本人観光客の話す日本語が久しぶりに聞こえてきて、ホッとする。

23 日 朝、不規則な生活に時差もあまり感じないまま、関空着。

・最後に

火と氷の国、アイスランド。火山あり、温泉あり、氷河あり、絶景の数々。どれも、とても感動的でした。でも数日過ごすうちに、なんか違うなと違和感を覚えるようになってきました。山を歩いていても、車を走らせていても、別の惑星にきたかのような火山灰や溶岩の世界がひたすら続きます。最初は、うきうきしていた気分も、余りに荒涼とした大地と灰色の空を見続けていると、なんだか気持ちが落ち込んでくるようになってきました。たまに木々のある所にたどり着くと、ただそれだけで何とも言えない安らぎを感じました。アイスランドの国の人々にとっては一番華やかなりし頃でも、私にとってはあまりに荒涼とし過ぎています。まして暗闇の押し寄せる冬ではどんな世界なのでしょう。私には、想像が付きません。北欧の人が、夏には太陽を求めて南へ南へとバカンスに行く気持ちが分かるような気がしました。

そこら中に草木が生える緑豊かな日本は、何と恵まれた国なんのでしょうか。緑の森を眺めるだけで、大きな木に触れるだけで、生きていく力をもらえるような気がします。自分が、森の文化圏で育ったことを肌で感じた山行きとなりました。

アルバム



ランドマンナロイガル キャンプ場



ランドマンナロイガル 温泉



地熱地帯



蒸気が噴き出す



氷床の上を歩く



黒曜石の山



フラプティンヌスケルのキャンプ場



フラプティンヌスケル周辺の山



雪を越えて



アルフトヴァアトンの湖を目指して



ヴァンギルへ



火山灰砂漠



ポトナルのキャンプ場



お洒落な道標



魚の頭のような岩山



樹々が現れて、ほっとする



ゴールのスルスモルク小屋



オフロードバス



シンクヴェトリル国立公園
こちら側は北アメリカプレート、対岸はユーラシアプレート



有名な間欠泉 ゲイシール



セーリャラントスフォスの滝の裏から見る夕日



ヘイマイ島 港が溶岩で埋まった。



溶岩が寸前で止まったラッキーハウス



かわいい海鳥 パフィン

5月の立山三山巡り

川野幸彦（昭56理）

6回目の立山。これまで5月に5回、11月に1回登った。山岳部に入り1年生の5月合宿が雷鳥沢だった。今から42年前のことである。その合宿の初めてのアタックが立山三山であった。特に記憶に残っていない。天気良くて順調な登山だったと思われる。また、15年前には、雄山の直下から滑落した男性の救助を手伝った。更に、2年前には天気の急変で雄山頂上でビバークした。寒かった。思いで深い山である。

今回のパートナーは、会社の同僚の松原祐子さんである。雪山が初めてであるが体力には自信のある43歳の女性である。以下報告。

4月26日（金）

新大阪から夜行バスで富山へ。満席である。今回は窓側の席で比較的良好に眠れた。

4月27日（土）吹雪 室堂⇒ロッジ雷鳥

朝6時前に富山へ到着。早速、富山地鉄に向かったが「室堂付近が吹雪で高原バスの運行がはっきりしない。」と駅員から言われた。とりあえず立山まで向かうことにした。立山は雨。美女平は湿った雪。高原バスはチェーンを付けての通常運行で、路面はシャーベット状、ノロノロ運転である。室堂は吹雪で視界は50mほど。室堂で長野側からやってくるパートナーと合流した。予定では、一の越から立山三山を日帰りに登るつもりであったが、今夜は、雷鳥沢のロッジ雷鳥に泊り、明日、剣御前小屋経由で登ることにした。室堂から山小屋までも吹雪で何度もルートを見誤りやっこさ到着。我々の後続の人たちは、誰もゆっくりした歩みの私を抜かなかった。皆さん、方向音痴なのかルートが読めないのか。最後は私を先頭に20名位の大パーティになった。山小屋では温泉に入りビールを飲んで満足であった。

快適である。明日は快晴の予報で5時に出発することにした。山小屋はおちゃんばかりの4人部屋。皆さん話好きで楽しい夜となった。

4月28日（日）快晴 ロッジ雷鳥5:20⇒剣御前小屋9:00⇒雄山13:10⇒室堂15:00

快晴である。先行パーティは我々より1時間ほど先を登っている。ラッセルがあるようでピッチが上がっていないように見えた。1P進んだところで、突然轟音と共にヘリが飛んできて我々の少し先でホバリングをしていた。昨日の吹雪で疲労凍死された方を吊り上げていた。後で知ったが、この方は76歳の男性で御前小屋を目指していたらしい。残念である。あの吹雪ではどうしようもなかったであろう。吹きさらしの悪天での着の身着のままのビバークは5月といえども厳しい。2年前の雄山頂上でのビバークを思い出した。雷鳥沢から3Pで御前小屋。途中、数人の下山してくる人に会い言葉をかわした。その中のお一人は、先ほどの遭難者の吊り上げを目の前で見たらしくショックだったようだ。「今後夏山以外は登らない。」とおっしゃっていた。御前小屋から1Pで別山。途中、雷鳥を4羽見た。逃げるところか近づいてくる。人に馴れている。なおこの日は、合計6羽見た。別山からの剣岳は迫力がある。パートナーは「来年は剣岳に登りたい。」と言っていた。いつ見ても剣岳は素晴らしい。別山からはやや急な下りであるが富士の折立の取り付けまでは問題なし。ここから富士の折立までは急な岩稜の登りとなる。ほぼ、稜線通りに辿り360°の大パノラマの頂上へ。アイゼンを引っ掛けずに注意した。ここからは、室堂から一の越や御前小屋を目指す人が大勢見えた。物凄い人である。数珠つなぎである。こんなの初めて見た。さすが史上初の10連休である。また、先ほどから見えていた幻日と副虹が鮮やかである。こんな

美しい虹は初めて見た。雄山神社でお参りし、2年前のビバーク地を見て下山にかかる。岩が出ていて夏道通りに下った。この辺りこれまでに訪れた中で最も雪が少なかった。予定ではシリコで一気に下るつもりでいたが岩が露出して危なくてできなかった。一の越を経て室堂までは踏み固められたとレースで快適だった。室堂では、高原バスの待ち時間が2時間。長蛇の列。この

ため富山で大阪行きの最終の新幹線に乗り遅れ、もう一泊することになった。やられた。駅前のビジネスホテルに泊まった。一部屋だけ空いていて5800円也。翌日は新幹線とサンダーバードを乗り継ぎ、大阪へは昼過ぎに戻った。今日からは孫守りである。疲れた。来年は剣岳に登ろうかな。



定年退職記念登山 山スキー山行2つ

山本恵昭 (昭56理)

平成31年3月で定年退職となりました。まだフルタイムで続けて働くことになりましたが、ここで気持ちを一区切り。仕事の時間と自分の時間との割振りで、これからは少し自分の楽しみの割合を増やしても許してもらえるかな。老体に鞭打って、山に行く機会を増やそうと思っています。

1. 槍ヶ岳飛騨沢 3月

槍ヶ岳に登り、飛騨沢をスキーで滑る。10年ほど前の3月末に試みたときには、時ならぬ大雪で膝ラッセル。1日目は滝谷避難小屋までしか辿り着けず、2日目は飛騨沢途中で時間切れとなり敗退。今回は2回目のチャレンジ。果たして、槍の女神は微笑んでくれるのか。

3月26日9:00新穂高発。雪が少ない目なので、滝谷出合まではスキーを担いで歩く。快晴の空に滝谷が絶景。滝谷のデブリを越えてから、シール登行。真っ白な槍平が眩しい。数パーティが下山し、15:00に到着した槍平冬季小屋は貸し切り。スマートホンの電波も入らず寂し過ぎ。夕方から激しく雪が降り、明日の行動は諦めモードで早々に寝る。

27日夜半、目が覚めると、いつの間にか星空。積雪20cm。早速準備し、4:20ヘッドランプを点けて出発。飛騨沢をひたすら高度を上げていくが、強い風が雲を呼び寄せ、空の青がどんどん白くなっていく。崩れていく天気と競争。気力はあるけど、パワー不足。

10:00飛騨乗越に到着する頃には、とてつもなく強烈な風と地吹雪。風を避ける場所もなく、岩の割れ目にリュックとスキー板を挟み込むが、飛ばされそうでシールをはがすのも一苦労。この風では槍の穂先に向かう気力なく、下山決定。

10:30瓦礫の上でスキーを履き、氷の上に移動する。飛騨沢上部は、転んだら終わりのカリカ

リのアイスパーン。ひたすら横滑りで慎重に高度を下げる。かなり下って、アイスパーンの中に、飛ばされた雪の吹き溜まりを見つけ、その島のような安全地帯でちょっと休憩。高度を下げると風もましになり、時にはターンも交えて、飛騨沢を下る。下部は快適パウダーとなるが、雪を舞い上げて滑るには脚力が限界。斜滑降とボーゲンで忍耐の下降、最後はストックでこいで、槍平小屋に11:30到着。

デポ荷物をまとめると重荷が肩に食い込む。12:30発、チビ谷出合まではスキーで下ることができた。チビ谷のデブリを越えてから、河原をスキーで下る選択肢もあったが、雪が少ないようなので川へドボンリスクを避けるため、スキーを担いで夏道のトレースを辿る。15:00白出沢出合からの林道で再びスキー。昨夜の雪が残っていて、穂高平まで滑ることができた15:30。やっとのことで新穂高に16:30到着。なんと、12時間行動。その割にあまり疲労感がないのは、スキーマジックか。

無料露天風呂(協力金200円)荒神の湯で汗を流し、仮眠しながら28日朝神戸に。



槍平への登りから滝谷



檜平冬季小屋



烈風の檜ヶ岳



飛驒沢

2. 高天が原温泉、赤牛岳 5月

せっかくの10連休。何処か普段行けないような所へ行ってみようということで、山スキーで北アルプスど真ん中、高天が原温泉を目指すことに。天気が良ければ、以前沢登りで訪れた赤牛岳や水晶岳カールにも行ってみようと、6泊7日の計画。イワナも釣ろうと欲張って釣り道具をザックに入れていたけれど、いざ出発というときに担いだザックの重さに耐えかねて車においていく。

当初の計画では、4月26日(金)夜神戸発で27日(土)から入山予定だったが、仕事の帰りが遅くなったのと変な寒波が来ているので、日程を1日遅らせることにした。

4月27日(土)昼過ぎ、高山から新穂高へ向かう道中から雪が降っている。のんびりと雪の舞う荒神の湯に入り、時間をつぶす。新穂高の駐車場の車中でスーパー惣菜の夕食を食べていると、激しい吹雪となってくる。フロントガラスは雪で覆われ、風で車が揺れる。駐車場でこれ、日程を1日ずらして正解。

28日(日)5:30スキーを担いで出発。今年は雪が少ないとのことであつたが、4月に入ってから降雪でかなり多い。穴毛谷出合辺りから林道は雪で覆われ、スキーでシール歩行。わさび平小屋前に3張、秩父沢のデブリを越えて大ノマ乗越への途中に1張、テントがある。昨日吹雪の中行動して、ここまででストップ。今日は鏡平を往復し、明日下山するそう。

朝は快晴であつたが、次第に太陽に量がかかり、穂高の上にオーロラのような虹雲が現れる。美しいが不気味。大ノマ乗越への登りはボウルの底で太陽に焼かれるようで暑い。雪もグサグサで体力を奪われる。

16:30大ノマ乗越に到着し、反対側の沢を滑り降りる。最後は、高度を下げないように斜滑降で双六谷に降り立つ。双六谷は、傾斜もゆるく登りやすい。2450m付近の快適な台地でテント泊1

6:50。夜は満天の星空。

29日(月)6:00出発し、ちょっと上ると双六小屋。避難小屋に人の気配はない。小屋前の斜面を登り、2650m付近から双六岳北側に斜登行。10:30三俣蓮華岳に到着。黒部源流域の広大さに息を呑む。鷲羽岳の奥に水晶岳が見えるが、今日の行程はその懐の向こう側までと思うと、遙か遠いことを実感。

三俣蓮華岳の北側の尾根を滑り、途中から広い斜面を三俣山荘へ11:00。できるだけ高度を下げないように斜滑降しながら、黒部源流2450m付近へ。再びシール登行し、14:00岩苔乗越。ここから先はスマホの電波が届かないので、家などに現在位置を連絡する。雲が下がってきて周囲の山々は見えないが、幸いこれから下る岩苔小谷の谷間は視界良好。

コルの雪底跡を避けて、少し上がってから滑降スタート。最初は傾斜もあり、先日降った雪がモナカ状となり滑りにくい。高度を下げるに従い、ベト雪となる。スピードが出ないので、直滑降とボーゲンで高度をどんどん下げていく。広い谷をひたすら滑るのも気持ちが良い。

水晶池台地の下で谷は狭まり、雲の平側からのデブリで埋まっている。それを越えると、やっと高天が原。せつかなので、地図にある池を訪ねてみる。ツガの森の中にポツンと美しい池が現れる。夏道はあるのだろうか。チャポンというイワナの気配に、釣り具を置いてきたことを後悔。さらに森を進み、高天が原山荘からもうひと滑りで温泉沢へ到着。

沢の横の台地にテントを張って、早速入湯。熱すぎるので、スコップで周囲の雪を放り込んで適温にする。底にたまった黄色い湯の華が体に纏わりつく。硫黄の香り。暖まって、極楽ゴクラク。山を3回越えて、やって来た甲斐があった。雪を溶かして水を作るのも面倒なので、ちょっと硫黄臭い沢の水を飲用に使う。夜には雨が降り出し、憂鬱な気分。

30日(火)朝からの強い雨で時間を持て余していると、空が明るくなってくる。雨が止んだので、赤牛岳に向けて9:30出発。沢沿いの台地を進むと、広く開けた温泉沢に合流。この辺りは、野生動物の天国か。クマ、カモシカ、ウサギ、キツネなど、いろいろな足跡が雪の上に点線を描き、交差する。そこにスキーの2本の直線とその横のストックをついた点々。何だか面白い。

左俣を2400m付近まで登ると稜線がすぐそこに見えている。しかし、みぞれが降りだし風も出てきたため、11:00赤牛岳は断念。下るとなるとスキーは速い。アタック装備の軽いザックを背に、程よく緩んだ雪を快適に滑降。何と爽快、素晴らしい。テントに11:30に戻る。

今日はそのまま沈殿し、温泉三昧とも考えたが、天気予報では雨の後にまた寒が入るとのこと。先日のような吹雪だと脱出できなくなるので、今日の間に行けるところまで戻ることにする。12:00発、雨に濡れたテントが重い。高天が原では、昨日のトレースを辿らず、地図の湿原マークを訪ねてみる。森から雪原を辿ると、湿原が開けた。ぐるりと大回りをして、小川のスノーブリッジを渡る。やがて、昨日のトレースに合流して、岩苔小谷に着く。

トレースを辿りながら、ひたすら登り。時々、雨が降るが、昨日はひたすら下っていたのに比べると、ゆったりと広大な景色を見ながら気分は上々。岩苔乗越に17:00着。黒部源流を滑って、2450m付近のダケカンバの横でテント泊17:20。テントに入ると同時に、激しく雨が降りだした。

5月1日(水)みぞれが降っているが、6:00出発。三俣山荘へ登りあげると、ガスに包まれた。スマホのGPSで何度も現在位置を確認しながら進み、最後はアイゼンに履き替えて、三俣蓮華岳へ8:30着。結構雨が降り出して、中まで滲みってくる。

ホワイトアウトで、双六岳のショートカット地点が

よくわからない。頼りのスマホのGPSがなぜか使えない(後でわかったのは、胸ポケット内で誤作動を起こし、画面が真っ暗になっていただけであった)。少し進んでは、真っ白な斜面とにらめっこを繰り返し、何とかルートを導き出すことができた。登りで見た記憶のあるハイマツ地帯を見つけて、一安心。そこからは、サッと滑って双六避難小屋へ11:00。誰も居ないが、雨がしのげるだけでも天国。行動食を食べて、一心地。

外は結構雨が降っているが、下山決行。双六谷を直滑降で滑り、大ノマ乗越へ登り返し。雪崩に合わないよう谷筋を避けて樹林帯の中をジグザグに登っていく。

大ノマ乗越に13:00到着。ここからの斜面は、意外と滑りやすい雪質で、大回りでどんどん下る。最後はデブリを越えて、安全地帯の林道へ到着。棒立ち直滑降やストックでこいで、穴毛谷出合付近までスキーで下ることができた。もうひと踏み張り歩いて、新穂高登山指導所に16:00到着。下山届を提出するが、用紙は平成のままだった。

荷物を置いて車を取りに行き、びしょ濡れの荷物や服をルーフボックスに放り込む。温泉代をケチって、再び荒神の湯へ。汗を流していると、ひどい日焼けに観光客の好奇の目が集中。0時頃から車を走らせ、早朝には神戸に。

3月の槍ヶ岳は、2度目のチャレンジでしたが、またまた槍の穂先には辿り着くことができませんでした。でも、現状の体力、気力、判断力を最大限活かして、やり切った感一杯。果たして3度目はあるのか、ないのか。

5月の高天が原は、長期のゆったりとした計画を立てた分、重荷に喘ぎ、めったに行けない奥地へと思った割には天候不順による脱出プレッシャーに翻弄された山行となりました。特に、ホワイトアウトの中、思いもよらずスマホGPSが使えなくなった時には焦りました。いつの間にか機械頼りになっていることを反省。でも、スキーを最

大限道具として使いこなし、訪れることができた高天が原は、野趣あふれる素晴らしいところでした。

ここ数年の山行に比べると、少し自分を追い込んだ山行となったように思います。最近、年々体力の低下を実感。行ってみたいところへは今行かないと、もう次のチャンスは無いかもという気持ちがあるのかもしれませんが。

今回、どちらの山行も目標の山頂に立つことなく終わっています。だからと言って、満足感や達成感がないかというと、そうではありません。山頂に立ちたいという気持ちが無いわけではありませんが、そんなことよりも、山行を通して自分との対話を楽しんでいるような気がします。「まだ、〇〇時間行動しないといけないけど、体は大丈夫かな」「膝に違和感が出てきたけど、ゆっくりならなんとか」「この壁は登れそうかな」「60%可能性ありそう。でも40%のリスクをとるのはやめにして、もう下山しよう」「全身びしょ濡れだけど、まだ進む」「もうちょっと先の様子を見てみようか」山の中で、声にならない声で、自分に語り掛けています。客観的に自分の状態を判断して、突っ込まずに引き返せているのであれば、まだしばらくは山登りを楽しんでも良いのかなと思っています。



小池新道



虹雲



高天が原 湿原



双六谷源流



高天が原温泉



三俣蓮華岳より 右: 鷲羽岳、中央奥: 水晶岳



温泉沢左俣

甲南学園の大学生活を思い出して

鈴木頼正（昭33経）

山に登りたいと思ったのは昆虫採集を始めて、高山蝶に魅力を感じたからです。

第二次世界大戦、敗戦は小学6年時の8月、翌年旧制中学校に入学、戦争もおわり、気分も明るく開放感がみなぎりました。しかし配給が続く、食料は以前より少なく、体力は衰える一方でした。

一年生に入学してすぐ昆虫趣味の会に入部、高槻の神峰山寺や比良山に上級生と泊りがけで出かけました、二年時の7月一学期が終了する翌日、伯耆大山の榎水原でテントを張り、長い三本継ぎの竿に捕虫網をつけミドリシジミを採集しました。三年の時は、一学期が終了するや松本地方電鉄に乗り、岩魚止まで歩きました。そこで豪雨に会い小屋の軒先で仮寝をさせてもらいました。食料は玉ねぎとジャガイモと少しの米だけでした。

翌日は徳本峠を越え徳澤園、槍沢から槍の殺生小屋に着きました。付近でテントを張ったが夏テントに毛布をかぶっても寒くて寝られず、小屋に入ったものの満員で魚の目刺しのように頭、次は足と交互に並んで寝ました。夜中便所に行けば、寝る場所が無くなり閉口しました。翌日、目が覚めると、残っているのは我々だけで、あわてて槍ヶ岳に登り、大天井を唐松の中から現れる雷鳥の親子を見ながら常念小屋に向かいました。縦走中、営林省の方に国立公園は植物の採集は禁じられていると注意を受けましたが見逃していただきました。

大学に入学してすぐ山岳部に入部。卒業してから鈴蘭小屋で山岳会の総会が開催されたとき、

主の福島清喜さんがお世話をして下さいました。

山岳会総会の翌日に、香月会長と福田先輩が野麦峠に行きたい、案内してくれと言われ、お二人を乗せ向かいました。昔信州松本の正月は野麦峠のボッカさんがこの野麦峠を越え日本海の鰯を運んだそうです。日本海の越中富山は海の沖に垂れ下がった雲の中に稲妻がきらめき雷がとどろく、お越しと呼んだ立山では雪起こしといわれ山麓まで雪の来る季節の訪れでもあったとのことです。

山岳部のころは、山の遭難が続きました。木全君、翌年福永君の大惨事、彼はとうとう帰ってこなかった。

福永君の捜索に秋まで剣大窓の下にテントを張り捜索を続けました。学校に登校することなく山本先生と富山市町の中島荘でご家族に捜索の状況を説明しました。一方学校教養課程の試験は勿論単位が足らず、専門課程は丸谷先生のゼミなど数少ない科目だけが単位があり、他は単位が足りず、あらゆる科目にレポート提出の科目を選択して受験しました。

卒業式には入社する会社も決まり、卒業できなければ親にも会社にも迷惑をかけるので心配で、夜も寝ることが出来ませんでした。翌日の卒業式に名前を呼ばれ、躍り上がって喜んだのは、もう六十年前のことです。

2019年8月28日

八幡梅仙寺墓地にて

泉 清司（昭56営）

鹿島槍に薮内が逝って30年目の節目に一度集まりましょう、と彼の同期の要から知らせがあり、お参りがてら久しぶりに皆の顔をみようと思ってきました。

平成30年12月29日阪急六甲駅に着く。かれこれ40年ぶりで懐かしいハズの阪急六甲であったが、初めて来た様な思いました。ここは「ジナンボー」があり横山さんがいて、いつも大月谷や堡壘岩周辺の「土日山行」の帰りに立ち寄り、ぶっきらぼうに相手をして頂いた、自分の庭のようなそれこそ「目を閉じていても歩ける」場所であったハズなのだが…。

気を取り直して、いざ梅仙寺墓地に向かおうとするが、皆目見当がつかずOBとしては情けなくも「グーグル」の世話になり歩き出す。歩いてゆけば土地勘も戻るだろうと自信満々で出発したが、ますます昔の面影は無く、「この東西の道は多分むかし練習で走った様な」という道が一本二本あった様な無かった様な情けない思い。

「グーグル」が行けという道は、徐々に急な坂になって「こんな道、昔は走ってたんや!!」と愕然たる思いです。平気な顔をして、心は「ヒーヒーハーハー」云いながらやっとかさ目的地です。

その名の通り門番の「要」が立っていてその横には「平井さん」も居ました。「あの歩荷歩きは甲南やなあ」って平井さんに言われ、何か身体にしみついてんねやと、少しうれしくなった気がします。「えっ皆はバスでっか、山岳部でっせ。35分は遅いわ、俺は25分で着いたで」と調子にノッていると、まあゾロゾロと「昔は若かった」連中がやってきました。「ビフォー・アフター」を観ている様に「えーと、この人は〇〇さん、こいつは〇〇やな」とまあ鑑定に忙しいひとときを過ごし墓参り。

突き刺す様な冬の空気と、少し雲がかかった淡い青空が何となくヤブの居るのに似合っていると思いながら、墓の前で「献杯」をしたのですが、鹿島槍の方がヤブが眠る場所としてはふさわしいのかなあとか、「今の教育現場」を考えると、あいつみたいにナイーブな奴は苦しいやろなあとか、そんな事を思いながら居ました。

ヤブは何故「厳冬期の後立山縦走」に行ったんだろうと思います。現役(在学中)の時でもなかなか冬の鹿島には勇気がいります。5月合宿、夏合宿、個人山行、冬合宿、春合宿、同じ釜の飯を食う、それこそ寝食を共にしてきた仲間とは、少し違う社会人(職場も別でしょう)とチームを組んで行ったのがなぜ冬の後立山、鹿島だったのか。ヤブくらいのレベルなら当然すぎる位わかっていたハズなのに。

皆、大学を出ても山が好きな人は個人個人に色々な山行をしています。皆ホンマに山が好きなんやなああと、俺みたいな「ヤサグレ」にはうらやましくも思いますが、共通しているのは、やっぱり「安全」「命」をクリアした上での山行ではないかと思うんです。「挑む山」より「楽しむ山」をなんでせんかったんやって思っていました。

「ヤブ、冬の鹿島はヤバイで」。



筆者(左)と挨拶をする要

御山谷沢登りに思う身体機能の衰え

大森雅宏（昭53文）

リーダー山本のお誘いで、黒部湖の御山谷に出掛けてきました*。御山谷は立山側から黒部川につながる谷ですがご存じない方も多いと思います。実を申せば誘われるまで私も名前を知りませんでした。でも、一の越から黒部湖に落ちている谷、といったら「ああそこか」。谷はなだらか、菌を食いしぼる所なし、ザイルを出す所なし、のシルバー歓迎の沢登りでした。

雨の神戸を夜中に出発して、夜明け前に到着した扇沢はまだ結構な雨。駐車して仮眠。トロリーバスが動く頃になってもまだ小雨。天気予報は一応快方を知らせているし、ここまで来たらやっぱいいなくてはとターミナルに。トロリーバスといえば、姿はバスですが架線から集電して動力を得るので区分は電車だとか。運転には大型2種免許のほかに電車の操縦資格が必要です、と案内の放送に教えてもらいました。そのトロリーバスで運ばれた黒四ダムでも雨は続きます。ダムを渡って地下道を経由して遊覧船乗り場を経て湖畔の道に。ロッジくろよんのテント場で小休止の頃は、雨も小やみになっていました。このロッジくろよん、見かけは山小屋ですが風呂があって予約はJTBでも扱っています。釣り客や黒部観光の宿泊需要もあるのでしょう、旅館に近い存在みたい。さらに黒部湖を左に見ながら進むことしばし、御山谷の出会いの仮設橋に到着。沢登りの足ごしらえ。

足ごしらえはフェルト底の沢靴が一般的ですが、私はいまだに地下足袋とポリプロで編んだワラジを使っています。昔の地下足袋は、とび職用の底が薄くてコハゼの多いのか、農耕用の底が厚くてコハゼの少ないのかの二手でしたが、この頃はバリエーションいっぱい。ホームセンターに行くと底が厚くてクッション入り、つま先にもガ

ードのカップが入っていて、コハゼの多い建設作業用のが簡単に手に入ります。地下足袋といえば、平野区の杭全神社近くのお祭り用品専門店、白地に金の竜虎の刺繍、底はエアクッションの派手なのを見たことがあります。大峰の修験道の人たちは、装飾なしの白いのを履いています。こっちは仏具屋さんが扱うんでしょうか。

さて沢靴を履いたリーダーは黒部湖の流れ込みまでサカナ釣りに。私はその間ザックに腰かけて瞑想の時間。人生の深淵に思いを巡らすうち30cmの獲物を手にリーダーのお帰り。ルートを上流にとって進みます。取り付けは少し狭かった御山谷もしばらく行くと空が開けます。天候も予報通りに回復して日差しの中、岩の間にルートをとって渡渉を繰り返す楽しい時間。このパーティにしては珍しく早めに行動を終了して台地にテントを設営。リーダーはまた釣竿を手に、残っているのは流木集めに精を出します。

そこそこに流木を集めたころ、手ぶらでリーダーのお帰り。今日は誰もいなかったけれど、釣り荒れていて釣果得られずとのこと。まあ、ダムから歩いて手ごろな距離だし、遡行に難所はないし、釣り師がたくさん入っていても仕方がないですね。黒部湖で釣った30cmを塩焼きにしているうちに日も暮れて。明日の荷物は軽くしないと、と食べて食べて飲んで焚火の宴会。

翌朝、目が覚めるとリーダー山本は早起きで焚火の続き。熾火に小枝をくべてお茶とラーメン。活躍している丸型飯盒、実は先年亡くなられた小原さんにゆかりの品です。宝塚の告別式参列の折りのお返し、選べるギフト。ページの中にアウトドア関係もあって選んだのが丸型飯盒。以来焚火の調理のたび小原さんの話が出ます。

朝食を済ませてのんびり支度をして、テントサ

イトを後にします。昨日よりずっといい天気。途中のポイントでリーダーは竿を出して、私はそのあいだ青空見上げて、たとえチコちゃんに叱られようとおかまいなし、ボーっと何にもしない贅沢な時間を過ごします。竿を出したり歩いたり、白い岩の谷を進むうち、谷が沢になって傾斜も増してきます。やがて出てきたダケカンパの藪漕ぎを続けるうち樹林帯から抜け出てカール地形に。青空を背に竜王岳が壮観。一の越から見ると大したことのない感じの山ですが、カールの底から見上げるとなかなか格好よく聳えています。五月合宿に竜王東面を登ったことがありますが、どこをどう登ったかはさっぱり思い出せません。

竜王と逆の方向を見上げると、一の越から東一の越への登山道に、人影が見えます。見えてるけど登ると遠いんだろうなあ、と思いながらこのあたりで山靴に足元を変更。水は最後の流れでしっかり補充しましたが、これも結構重い。見えている登山道までは2時間かかるだろう、などと思いながらガレ場を登ります。ルートは一の越よりもっと東一の越方向にとりました。

足元をしっかり見ながら、できるだけムダに高さを稼がないように足を進めます。一步が無理に大きくならないように、一遍稼いだ高さはたとえわずかでもムダにしないように、ケチケチと歩くこと1時間ほどで登山路に。案外早く着いたことを喜ぶべきか、ペースの読み違いを恥じるべきか。

東一の越への登山路は見晴らしがいい。振り返ると一の越、頭をずっとめくらせて竜王の岩場、黒部源流、赤牛、裏銀座、後立に黒部湖。登りはともかく、高度差なしのトラバスだと結構いいペース。景色を見ながらしゃべっていても、あっという間に東一の越。本日の徒歩目的地、アルペンルート黒部平駅が眼下に見えます。近いじゃないですか、少し降りたらぺったんこだし。

2時間も歩いたら黒部平でケーブルカーね、と思いましたがここもペースの読み違い。

まずは急な斜面をジグザグに降りて、緩斜面の樹林帯まで。材木や鉄筋で補強した一般的な登山道ですが、段差が大きくて膝にこたえます。ぺったんこに見えた樹林帯に入ってから、思惑は外れて結構アップダウンがあります。17時がケーブルの最終。それに遅れると明日まで待つか、黒部湖まで歩いてロッジくろよんの自販機ビールを目指すか。何とか最終にと急いでいると、70年配の男性に追いつきました。ケーブルの最終時刻はご存じで「私の足では間に合わないからそろそろビバークします」とのこと。ハイキングに来ました、という感じのザックでしたが食料と遮熱シートはもっている、ということなので、ペットボトルを渡して先を急ぎました。2時間らくらくの読みは見事に外れて2時間半、頑張って歩いた甲斐があつてセーフ。「最終トロリーバスにお乗りのお客様はお急ぎください」の放送をダムの上で聞いて、扇沢に。

行動中の天気が良かったのと、沢の中ではだれにも会わず貸切だったのと、あんまりしんどくないルートだったのと、いくつもいいことがあつて楽しい沢登りでした。

実はこの原稿、山嶽寮思いのリーダー山本から、「大森さんも何か書きませんか」と提案のような命令のような言葉を受けて書いたものです。あんまり中身がありませんし記録のメモもありません。「山行・紀行」のジャンルで扱われるのに無理がありますので、ちょっと書き足して「随想」のコーナーに入れてもらおうと思います。

山登りの分野で、学生時代に比べて衰えたことはたくさんあります。でも一番何かと考えると、足の力、歩くことに衰えが。リーダー山本との山行、積雪期は大抵10時間越えの行動です。ある

とき、「計画書では8時間とあるけど、いつも10時間やなあ」。ここで止めたらよかったのに「なんでやろ」、とほっと一息ついた雪洞の中でつぶやいてしまったら。「そりゃ歩くのが遅いから」、とリーダーに切って捨てられました。「アンタの歩くのが」、とダメを押さなかったのは思いやりでしょうか。今度の御山谷は、計画自体がマイルドなこともあって2日目の東一の越まではまあまあ快調。でも黒部平へ向けて、急げ急げの下りがなかなか辛かった。登りの「ムダに高さを稼がない作戦」はちまちましていて潔くないですが、割と効果があるみたいに思います。次の衰えは平衡感覚。バランスが取れない。ザイルがあるときはまだいいんです。一つ覚えの三点確保をしていたら私らレベルの対象だったらまあ安心。でも左右すっぱりの岩稜なんて、バランスだけでは不安が大。大抵リーダーが「ザイル出しましょか」と振ってはくれますが。渡渉の時のバランスも怪しい。それで一度思いついて沢登りにもストックを持っていきましたら、これが正解。ちょっと心配なとき、これでバランスをとれて安心が大。そのほかにも、今回の山みたいに行動時間の予測がつかなくなった、なんてのも衰えの現れです。

そんなことを思っていましたら、先日職場で目にしたのが、業界雑誌**の「高齢者が働く上での安全と健康」という記事です。著者はドクターで労働衛生コンサルタント***。労働災害についての考察ですが、山登りに通じることもありますでしょう、どれどれと。「加齢とともに低下する、安全への影響が大きい身体機能について」とあって、筋力 / 俊敏性 / バランス保持力 などなどがあげられています。それぞれの項目、私についてちょっと考えてみます。

筋力：手は日常的に使うのでさほど低下しないが、20歳から脚筋力は急激に低下 —

60すぎですから当たり前と開き直ってはいま

が、脚力低下は日々実感。

俊敏性と正確性：危険察知から回避までに要する時間がかかる —

「あ、いかん」と思っても対応できずに水中にばっしょん、つてことが先日行った沢登りでありました。この時はストックなし。

姿勢のバランス保持力：著しく低下 —
前項に加えて、岩稜・雪稜で実感。

体の柔軟性：関節の可動域が狭くなり、事故につながりやすい —

もともと体は堅いからあんまり実感ありませんが、そりゃそうなんでしょう。

視覚機能：視力はもとより俊敏にピントを合わせることも負担に。暗い作業場は高リスク —

動体視力は確実に低下しています。動いている電車からホームの駅名表示なんてまず読めない。電子工作のはんだ付けも、明かり煌々でハズキルーペがないとできません。

聴覚機能：作業指示が聴取できなかった例がある。特に高い音は聞こえにくい —

もともとぼんやりしているせいかあんまり気にならない。高い音については聞き取りにくくなると亡父が申し出ておりました

易疲労感：疲れやすく回復に時間を要す —
当たり前です。歳相応とあきらめています。

体温調節機能：発汗が少ない。熱中症には特に注意 —

もともと汗かきですが、夏場のごそごそ作業時はクーラーボックスに氷水を用意して休憩ごとに飲んでいきます。

記憶力：特に瞬間的に記憶する能力、図面を見て全体を把握する能力が低下 —

聞いて覚えるのですね。目からくる方はまだ少しまし。歩いていて車のナンバープレートをはっと見て、目を閉じて番号を逆から言う、なんてのは1台ならできます。(誰でもか) 2台まとめてはハードル高い。(私だけか)

(認知症のテストで、耳で聞いた8桁までの数字を逆から言えるか? というのがあるとかで、まずは目で試してみました。聞き取りだと4桁が精いっぱいかも)

とまあ、思いつくことを書いてみました。

でも。

歳を取るといろいろ衰えるけれど、悪いことばっかりでもないですね。それがどうしたと開き直るくらいの知恵もついていますし、短気が少しましになったとか、自分ができなくなった分だけ周りにも寛容になったとか。元々満点狙いはしませんが、90点でなくても70点でOKと合格点を下げる暮らしにシフト。

できなくなった、無くなった、そんなのばっかり気にせずに、まだできることあるデ、こんなことも楽しめるデ、というのを探してほどほどの頃合加減でいこうと思います。

* 平成 30 年 9 月 22 日～30 日

メンバー 山本恵昭 大森雅宏

** 「健康保険」2019.7

*** たかの ともき 精神科専門医 医博



釣り師と獲物



結構壮観の竜王

小川守正先輩のこと

鈴木頼正（昭33経）

今、甲南山岳部は部員もなく、廃部になりました。しかしOB会は脈々と続いています。毎年平生会館にて総会、翌日は六甲山に眠る先輩諸氏の慰霊祭を執り行い、秋には乗鞍岳や木曽福島を拠点して関東、関西勢が集まり昔懐かしい山の話に花を咲かせています。振り返れば、旧制5文の香月慶太先輩を始め、旧制13理の武田六郎先輩、旧制15文の鷲尾顕先輩、旧制17理の小川守正先輩も参加されていました。

小川守正先輩は新生大学部員のご指導を頂き、いつも兄貴みたいに優しく、時には厳しく、ご自宅まで出かけご指導を頂きました。

第九代甲南学園理事長、平成7年1月17日の阪神淡路大震災に無残に崩れた大学、芦屋の中高の惨事に啞然、創立後最大の危機にご決断は早く、即日プレハブ仮校舎の建設を発注し、学園復興に大いに役立ち、さらに与謝野馨文部大臣の視察に、創立精神、卒業生の社会貢献

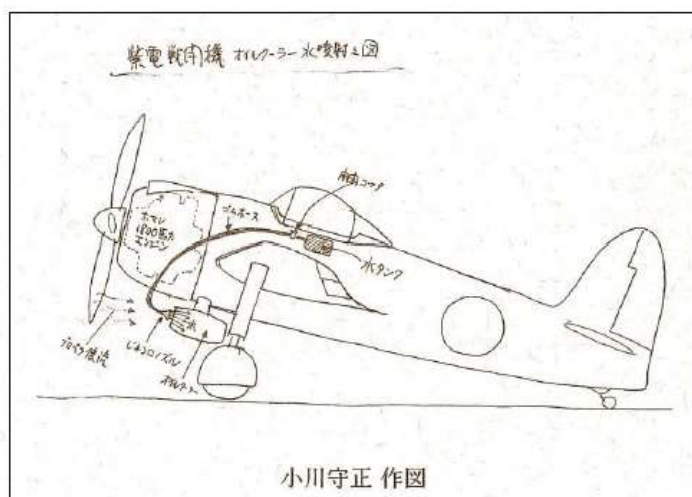
の数々を力説され、数十億円の特例助成金を獲得された功績は多大でありました。

また、松下住設機器(株)の社長時に自主責任、部門別経営を導入され、社業の急成長に貢献されました。元近畿大学工学部教授、奈良商科大学講師、PHP 総合研究所参与等歴任されました。

幸運にも私は機会があり、平成3年3月小川守正先輩の【自主責任、部門経営のやり方】の講義を受け、今以て大いに役立っています。このことは甲南山岳部で唯一人だと自負しています。

飛行機がお好きで年賀状はプロペラ飛行機が描かれていました。飛行機の会社にお勤めのこともありました。ニックネームは何故かアヒルさんです。

2019年5月28日



2009年11月 学園祭で講演
『今こそ、生かせ平生学』

小川さんの自伝「わが人生おもろかったで」より

追 悼

武田雄三（昭 39 経）

【はじめに】

敬愛するアヒル大先輩（小川守正さん）が 3 月 2 日に 98 歳で亡くなりました。

私は甲南山岳部・甲南山岳会の輝かしい歴史は、旧制の諸先輩が紡いで来られたものと考えていますので、またお一人尊敬する大先輩を葬するのは寂しい限りです。

【偲ぶ会の開催】

6 月 15 日平生記念会館セミナーハウスで有志による『小川守正さんを偲ぶ会』が催され、山岳会よりは武田・大森の両名、甲南学園・甲南病院の関係者、松下電器産業及び同グループの皆さん、小川さんの娘さんやお孫さんも出席され盛大に執り行われました。

大森君がアヒルさんの『投稿・寄稿・著作物・講演等々』より、骨格をなす内容を 19 ページの小冊子に取り纏めて参列者に提供してくれたので、私は余り知られていないアヒルさんのエピソードを披露する事となりました。

＊ 愛称アヒルさんの由来と、甲南山岳部では体育会系で有り得ない先輩を愛称で呼ぶ文化。

＊ 小屋泊りの山行では、朝食を 3 人前食べる。

（昼食は抜き）

＊ 剣岳に於ける 2 度の落石による怪我、前穂高ラッシュ・タクティクス時の滑落等遭難一步手前の事故の体験。

＊ オフシーズンの富士登山で出会った環境破壊。

・・・山肌に白い帯がと思ったら汚物の処理・・・と聞き怒り心頭、県知事宛てに『自然遺産申請中なのに何たる事か、アメリカではソーラー発電を導入し電気処理、この処理能力以上の人員は受け入れない』と抗議文を送ったが返事はなかったとのエピソード。

＊ 雨さんが『ヒマラヤの目ぼしい未踏峰が無くな

った今、山岳部は何を目指すべきか』と相談したところ『高さの目標が無くなったのなら、水平への展開を考えたら』との思わぬアドバイスが。

その後深田久弥選出、日本百名山の連続登攀を何日で達成できるかが試みられる様になった事を思えば、アヒルさんのこの柔軟な思考に感服。

＊ 甲南学園理事長就任が決まった年『この度山岳会より甲南学園への出向を命じられた小川です』とユーモアたっぷりの自己紹介。

＊ 1991 年頃、現役部員が減少し『休部か廃部か』の瀬戸際に追い込まれ、現役部員がいなければ学内での勧誘活動が出来ないと私がアヒルさんにボヤキを入れたところ『現役部員 5 名を確保出来たら有馬温泉で一席設ける』と励まされました。

私が内心期待していた学生部への働き掛けには一切触れられず、甲南の誇る学生自治の精神遵守と公私混同をされない姿勢に感服した次第。

＊ 私がアヒルさんと御一緒出来た唯一の山行は、2000 年の木曽駒ヶ岳。『木曽福島集会前日に木曽駒ヶ岳に登りたい』との要望があり、雨さん・二谷さん・私が同行。私は駒王へ車を廻す役割で山頂小屋まで御一緒、78 才のお年に関らずしっかりした足取りで登られました。

翌日、集合時間になっても下山されないので福島側の登山口に、二谷さんの顔が見えたので一足先に駒王で待つ幹事に無事下山を報告。

（この時アヒルさんは、白内障で下りの足元が見えず大変苦勞されたとの事で、加えて翌年より激しい腰痛発症、毎年続けておられた 3 千メートルクラスの登山諦められた由。）

偲ぶ会散会の折、ご遺族が提供されたと思われるアヒルさん執筆の自叙伝【我が人生おもしろかったで】(燃焼社から発行)が当日配られました。一読に値すると思いますので、項目だけご紹介します。

第一部 我が青春に悔いはなし

一、子どもの頃	01
二、旧制甲南高等学校—平生さんの思い出—	05
三、九州帝国大学航空工学科	32
四、川西航空機・設計四課	38
五、海軍航空隊	48
六、我が青春に悔いはなし	79

第二部 戦時下の山岳部(昭和十四年～十七年) 81

第三部 災害に想う	104
一、昭和十三年の大水害を偲んで	108
二、甲南大学の復興に思う	111
三、「国際化・情報化時代」二一世紀を舞台に	117

第四部 危機突破の経営学 123

一、経営の神様 松下幸之助の教え	108
二、危機突破の経営学	111
三、松下住設機器(株)の危機突破	133
四、松下電器、エアコン事業の危機突破	135
五、(財)甲南学園の危機突破	139
六、(財)甲南病院の経営危機突破	146

この日が来る事を思い予てより用意されていた、と思われませんが、なかなか面白いアヒルさんらしい読み応えのある自叙伝です。

最後に、アヒルさんは

- * 幼少期に悪の認識として『嘘つきと弱い者苛め』
- * 長じては平生さんの教育理念である『体育・徳育・知育を通した世界に通用する紳士たれ』の教えと『自由主義』
- * 山岳部時代に身につけた死生観と臨機応変の行動力
- * 更に松下幸之助さんより教えられた経営者とし

ての危機管理手法

これ等をその局面・局面で活かして【我が人生おもしろかったで】の境地に達せられたのでしょう。

甲南山岳部・山岳会をこよなく愛されたお気持ちに感謝を込めて有難う御座いましたと申し上げ、ご冥福をお祈り申し上げます。



小川 守正さんを偲ぶ会



わが人生おもしろかったで

令和元年6月35日(土)
平生記念会館セミナーハウス

小川守正さんを偲ぶ会に思う

大森雅宏（昭53文）

小川さんを慕う皆さんが集い、「小川守正さんを偲ぶ会」が令和元年6月15日平生記念会館セミナーハウスで開催されました。

甲南山岳会からは武田雄三前会長が出席され、旧制山岳部時代のご活躍や現役とのかかわり、山岳会でのエピソードなどをご披露されました。

学校関係では吉沢理事長が、小川さんが理事長に就任されて学園の経営改革に努められたこと、改革が進みつつあるときに震災に遭遇し、優れた俯瞰力と素早い行動力で仮校舎を震災当日に発注されたこと、神戸大学視察の与謝野文部大臣に面会し復興への協力を強く要望されたことなど、当時を振り返り追悼の辞を述べられました。

病院関係では平生理事長が、経営危機にあった甲南病院グループの立て直しに小川さんが尽力され、お陰で今の甲南病院グループがあると、こちらも追悼の辞を述べられました。

小川さんの自伝ともいえる「わが人生おもろかったで」から当時のことを拾ってみます。

理事長就任時、大学の毎年の収支は黒字ながら内部留保はほとんどなく、旧制高校時代の建物と大学開設時の建物は老朽化が進んでいた。中高の赤字は大学からの繰り入れで賄えたが、校舎はほぼ移転時のままのもの。いずれも建て替えを考えるべき時期であり、労組との交渉を経て収入の87%で学園を運営、13%の内部留保を3年続けたときに震災に遭遇した。その時点での手持ち40億円が復興に大きく役立った。文部省や自治体の支援、卒業生や卒業生の勤める企業からの援助にも心からお礼を申し上げる、と述べておられます。

病院の理事長時代も、経営危機との戦いが続きます。甲南病院グループは医療機関として高い信頼や評価を得ていたものの、六甲アイランド病院

の建設や国立加古川病院の継承などに要する資金を、すべて銀行借入れに頼ったため、崩壊寸前の財政状態に陥っていた。これに対し、全従業員に経営状態を明らかにしたうえで、経営再建に取り組む。銀行債権はゴールドマンサックスに売却され、交渉が続くことに。内部に対しては、各病院の院長・副院長・部長と主任以上の看護職への研修・教育に勤め、現場の幹部に権限を持たせることで士気の向上を図り、各病院の診療科を再編成するなどにより効率的な経営を目指した。小川さんはご自分のことは誇らず、「全従業員の協力と幹部職員の統率よろしきによって短期間に再建に成功した。それらの方々に深く感謝したい」と述べておられます。

私の存じ上げている小川さんは、スピーチをスマートになさって、四角張らない筆さばきで、甲南の仲間を大切になさって、とりわけKACがお好きで、平生さんが大好きで、お酒が入るとアンダーシャツ姿になる方、でしたが実はそれぞれの時代に功績を残され、各方面に随分大きな影響力を持たれた方でした。

また、学園や病院の再建を見事に成し遂げられたのは「敬愛する平生さんの作った甲南をつぶしてなるものか」という意地ともいえる強い信念があったからと感じ入りました。

時報40周年記念号の、「海軍航空隊から命からがら復員した吾輩は」で始まる小川さんの前穂北尾根の記録をご記憶の方も多いと思います。同じ題材を扱いながらこちらは紳士の文章、きちんとよそ行きにまとめられた山岳雑誌への寄稿文を次ページ以下にご紹介します。

奥又白谷より 前穂高北尾根登攀 1947年3月の記録

小川守正

これは積雪期の奥又白谷の概念を掴むために志した第一歩の行動として甲南高等学校山岳部が行った本年3月の登攀である。

メンバーはリーダー奥田泰三、中村忠雄、福井享、これにOBとして私が参加した。

根拠地は徳沢小屋、天候に恵まれて、徳沢へ着いた翌日偵察、翌々日登攀という好調さであった。

3月18日 快晴

15日に大阪をたち、16日に松本で食糧を補充し坂巻温泉まで、17日に上高地を経て徳沢へ到着した。この間連日快晴、この天候はいつ崩れるかわからない。10日間は徳澤で頑張れるだけの用意はして来たがこの快晴を見送るわけにはゆかない。労れた体に鞭うって、午前3時起床。折よく居合わせた蒲田の中畠政太郎が親切に面倒をみてくれた。中畠は奥又にはまだ大きな雪崩が出ていないから気をつけなければいけないとしきりに注意してくれた。それで今日の偵察如何では涸沢側から北尾根を経て前穂高の登頂をするにとどめようという二段の計画をたて、午前5時40分出発。

あたりはもう明るかった。ひろびろとした梓川の河原へ出て、クラストした雪面にシュプールを印してゆく。奥又白本谷の出会いにつく。天候は申分がない。よし奥又白池まで行ってみようということにきめ、所謂松高ルンゼ下のスキー・デポへ着いたのが7時。——朝日に輝くルンゼはさながら白銀の廊下である。

一同ここで上衣もスエーターも脱ぎ、シャツ一枚にウインド・ヤッケをつけ、これから数時間はつづくであろう輪かんラッセルの猛アルバイトに備える。気温は零下9度だったが、朝日はもう背にあたたかい。

7時20分出発。10米ごとにラッセルを交替してぐんぐん登る。

東面のこの谷は8時ごろになれば雪がゆるみ出

してくる。そこですこし損だが、安全を期して右手の尾根へ逃げた。奥又白池の台地へ出る最後の150米ほどの斜面は腰に達するラッセルで苦勞したが、丁度9時に池へ着いた。

ここから眺める北尾根の奥又白側岩壁は全く壮観である。明神から前穂、三峰のリッジ、つづいて眉を厭する四峰の岩壁、雪と岩との構成する景観は物凄い緊迫感をもっている。ルンゼのすべては今や雪崩んばかりにさえ見え、デブリはどこにも見られない。中畠が心配するのも無理はない。しばらく我を忘れて見とれていたが、やがて明日の激しい登攀の偵察に、プリズムを出してピントをあわせた。最初の考えでは三四の科尔へ続くルンゼを登るつもりであったが、その余りにも急峻なのに自信を失って四五の科尔から落ちたルンゼを登ることにして、入念な偵察をする。

やがて池の在る筈の凹地にツェルトを張ってもぐりこみ、食事をする。

松高ルンゼは午後にならなければ危険で下れないので、食事後は台地を散歩し、プリズムを使つては景観を楽しんだ。湖畔の岳樺に吹雪いた時の用意に赤い旗をつけたりした。と、突然、大音響が起った。ハッとして音のした方を眺めると、三四間のルンゼから濛々たる雪煙があがっている。雪崩。典型的な日射による二次雪崩である。デブリは奥又カールの中央まで押しだしてとまった。12時半ごろであった。

午後1時、松高ルンゼの日射が弱くなったので下り初め、1時間足らずでスキー・デポ着。スキーをつけて、あとは思いきり直滑降を飛ばした。徳沢帰着2時。

中畠はどこかに行って留守だった。

われわれはいそいで明日の準備にかかった。用意の米をしかけ、ピッケル・バンドとアイゼン・バンドにワセリンを塗り、オーバーシューズにも油を含ませ、いろいろやっていると、中畠が帰って来た。

梓川の氷の割目で手掴みにして来たという岩魚を5尾みやげにして。おかげで夕食は岩魚の塩焼きに舌づつみをうてた。

就寝 6 時半。一同すぐぐっすりとした眠りに落ちた。

3月19日 快晴午後強風

目覚時計が鳴ったのは、午前1時半。中島は朝食の用意をして炉にあたっていた。起きぬけで食欲がないのを、茶漬けにして無理につめこむ。中島はなるべく涸沢か岳川を下れとすすめてくれた。雪の状態ではその方が楽かもしれない。しかし、スキーなしで岳川や横尾谷を下るのは苦痛だ。が、とにかく真夜中で雪もクラストしているし上高地へでも下ればあとでスキーをとりにつくのも厄介だし、奥又白を下ったにしても疲労しているスキーどころではないだろうとの考えから、今日は小屋から輪かんででかけることにした。

パーティの装備は完全な防風防水のツェルトサック1張、30 米のザイル 2 本、各自はいずれもウインド・ヤッケ、ウインド・ズボン、オーバーシューズで全身を防風防水によってかため、ピッケル、アイゼン、輪かん、手袋はスキー手袋2組づつと 5 本指のもの6組づつ、食糧はコップ4ケ、ハム30匁、握飯 2 ケ、しかし、これはすくなすぎた。ビバークの公算が大で、携行燃料 2 ケ、蠟燭 1 本、懐中電灯 2 ケ、寒暖計1本、輪かんの予備紐 2 本などを用意しながら、食料は 3 食分しかもたなかった。5 食分は用意すべきであったのに。またできれば糖分と脂肪分を十分に含むものを考慮すべきである。

2 時半出発。満天の星が美しい。

松高ルンゼの入口についたのは4時。途中の森林帯で懐中電灯を不覚にも一つ落してしまった。これが後になって非常な禍をした。

昨日のラッセルの跡を辿りながら、登高をつづける。気温は零下 12 度を示し、今日の快晴を約束している。しかし、15 日以来、一日も休養をとっていないので、体は非常に疲労しているようだった。これは日頃の粗末な食事情もたしかに影響しているに違いないのだが。

奥又白池には向ずに、松高ルンゼの湾曲部から、

昨日のラッセルの跡を離れて、まっすぐに奥又カール目指してすすむ。ラッセルの跡を離れると、とたんに膝まで雪の中へもぐるので急にピッチが落ちる。

カールの中央部へ達しないうちに、あたりが明るくなって来た。カールから見あげる四峰の壁は物凄しい。飛ぶ鳥もとまるところさえないように見える。非常な敵意をもってわれわれを見下しているかのようだ。

われわれは黙々として進む。

四五のコルの間のルンゼに入ると、急に傾斜を増し、ラッセルも殆ど四つ這いである。例によって 10 米づつトップを交替して頑張ったが、死ぬばかりの苦痛である。しかも中頃から傾斜はいよいよ増し、スリップしたらひとたまりもない。緊張と昂奮でさながら鏝競合のような息苦しい登攀をつづける。一步一步。全身は塩をふいたように純白、吐く息は火のようだ。

8 時 20 分、ついにコルに立った。突然眼下に展開された涸沢の圈谷、雪にかがやく雄大な景観に我を忘れて眺め入った。涸沢小屋など白一色の下に埋もれて痕跡さえない。無類の快晴で、奥穂も、北穂も、槍まで一望の下だ。

日は燦と輝き、快い微笑が頬を撫でる。爽快いわんかたなし。疲労もいっぺんで吹き飛んだ思いで、パンとココアの簡単な食事をする。足許から屏風の頭までつづく銀蛇のような北尾根、その一点にとまるとる食事である。

やがて出発。アイゼンをつけ、2 パーティに分れてアンザイレン。

まず四峰へとりついたが、連日の快晴で雪はすっかり腐り、表面だけがクラストしているという状態で、ステップをきると、ザラメ化した下層の雪がザーと流れ出してくる。実に悪いコンディションであった。

頂上近くで奥又白側をトラバースしようとしたが、雪が無闇に崩れて危くて仕方がない。やむなくリッジ通しに登ったが、夏でも感じのわるい草つきの急斜面だ。おかげで2時間半を予定していた登攀に 3 時間以上を費してしまい、三四のコルに立ったのは 12 時もうにすぎた頃であった。

ここで昼食をとり、午後1時、いよいよ三峰へかかる。夏なら快適に登るところだが、ホールドもスタンスも全部雪に隠れていて始末におえない。しかも雪は午後の日光に融雪と代っており、それをいちいち落してゆくトップの苦労は一通りではない。特にとりつきのスラブとそれにつづく奥又白側のトラバースは手掛りになるホールドがすべてヴェルグラに蔽われており、岩の間で操作するピッケルは意の如くならず、ここで2時間以上の時間を空費してしまった。—— 後で中島にきいたら、積雪期の北尾根はなるべく涸沢側をまわべきだとのことである。

かくて三峰中腹の例のチムニイに達したが、驚いたことにはどこもここも雪がいっぱいでどれがチムニイなのやらさっぱり分らない。踏めども踏めども、粉雪はあとからあとから足許から崩れてゆく。ここはこのちよっと手前から涸沢側のリンネを登れば簡単にすんだのを、雪にトンネルを掘って登るという無駄な苦労をしたので、ますます時間を空費してしまった。のみならず、チムニイにつづくスラブの登りで、ラストがアイゼンをクラックの中へ挟んでしまい、どうしてもとれず、竄にかかった兔のようにもがくばかりで1時間以上ブレイキをかけられてしまった。

ようやくそれを脱出してから、非常にスムーズにゆき、二峰、一峰はガリイが雪に埋まっているため、夏よりもかえって楽な位であった。

前穂高頂上、6時30分、予定より3時間もおくれでついたわけである。三峰の登りあたりから吹きはじめた風は、次第に強くなり、前穂の頂上に立った頃は、岳川側から吹きつける風で面も向けられぬほどであった。

焦燥がわれわれを落着かせなかった。われわれはただちに明神に向かって出発した。稜線をさけて、岳川側の雪面をまいてゆくうちに、夕闇は次第に濃くなり、残っていた一つの懐中電灯も、心細い明滅のうちにやがて全くつかなくなってしまった。月はまだのぼらない。暗黒の急斜面でのザイル・テクニク。風はいよいよ強く、何を叫んでも声は吹きとんでしまい意思の疎通は阻まれついに途中で一人がスリップした。危くいとめたが、もうわ

れわれは混乱に陥入っていた。

苦心惨憺の上でコルへ出ると、どうやらコルが違っている。奥又白谷へ下る沢のコルより二つも三つも下の下又白へ下る沢の上へ出てしまったのである。

われわれは前進を中止した。風を避けてすこし沢へ下り、雪面を掘りさげてツエルトを張った。気温は零下15度。だがツエルトをしっかりと密閉して蠟燭をつけると、どうやら凌げた。携帯燃料を用いると12度まで上昇した。そこで一同濡れた手袋を全部出して乾かし、窮屈な思いをして靴もぬぎ、靴下も乾かした。手足の指や耳朶へは凍傷膏を塗って凍傷に備えた。

それから僅かな食糧をわけあって、やがていつか一同は疲労のために寝入ってしまった。

3月20日 曇後雪

ツエルトサックをバタバタと鳴らす風の音に目を覚ました頃は、もう明るくなっていた。6時半であった。

一同は流石に疲れていた。

ツエルトをたたみ、オーバーシューズを履き、アイゼンをつけて用意すると7時になってしまった。食事はとらず。

連日の快晴は崩れはじめていた。霧がかかって、視界がはっきりしない。のみならず私は明神から下又白谷へ落ちている岩稜については不案内でよくわからない。3年ほど前の夏に一度通ったことがあるだけだし、またこのあたりにはよく似た岩峰がいくつもあるので、特に上から霧のうごくところを見降しているのではどうも地形がはっきりしない。

だいたいの見当をつけて、下又白への岩稜らしいのを降りはじめたが、一つのピークを越すと、疲れて横着になっていたわれわれはすぐ沢筋へ下りてしまった。

沢を下りきって、すこし平なカールへ出てみると、霧の合間から、突然明神の東壁と、それにつづく東稜が眼に入った。やはりわれわれは下又白へ入っていたのであった。いけない、雪崩の危険が迫っている。が、もうひきかえすわけにはゆかない。

よし、滝さえ埋まっていれば、徳沢への最短コー

スだ。ともかく行ってみると、虫のいいことを考えてそのまま下って行っただが、やはり駄目だった。とても下れたものではない。

8時である。気温が馬鹿に高く、3度である。気温上昇による二次雪崩の危険は迫りつつある。急いで輪かんにかけ、空腹をかかえ、疲れきった体に鞭をうって、明神の東稜と平行している中又白の主稜の側稜にとりついた。

明神の東壁から落ちる雪崩の大音響、下又白をめぐるすべてのルンゼから落ちる小さな表層雪崩。危いところできりぬけた、それらの雪崩の壮観を見ながら、側稜を登る。一同、空腹と疲労で雪ばかり食った。

側稜を登りきって、主稜を乗越し、中又白の上部につづくひろい沢の雪面を横断して、奥又白池へついたのは11時近くだった。

午後1時、影りだした松高ルンゼを一気に下って、徳沢へついたのは2時半であった。

われわれはこの登攀から、実に多くの教訓を得た。登攀は一応成功しているが、たしかにこれは一応成功しているというにすぎない。後半の蹉躓は、もし天候の変化がもっと早かったならば、より以上の困難に遭遇したに違いない。

奥又白よりの前穂高北尾根の登攀は、初心者だけのパーティではいささか無理でありわけでも徳沢小屋を根拠地とすることは体力的に相当の自信がなければならぬ。奥又白池へ天幕を張れば、この点はセーフ出来ると思う。

雪崩に対しては、地形の複雑なところであるから、谷の曲折と斜面により日射条件が違って来るから、この点を余程考慮する必要がある。そのためには登攀前に於ける地形及び積雪状態の偵察は必須である。

小川さんが寄稿された山岳雑誌から引用しました

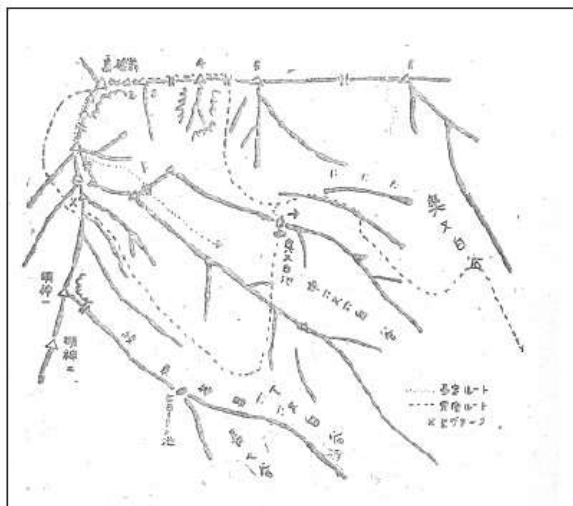
朋文堂 山小屋 137号

昭和22年5月25日印刷

昭和22年6月1日 発行



寄稿の冒頭



概念図

訃報 追憶 伊藤五介さんのこと

越田和男（昭36理）

伊藤五介氏（旧制甲南高校 昭和24年旧高1修）
2018年7月に逝去されました。享年87歳。ご冥福
をお祈り申し上げます。

註；（昭和24年旧高1修）とあるのは、旧制7
年制高校の高等科1年生として在校中に学
制改革により旧制高校が廃校になり、新制高
校卒業扱いとなり、大学は新制大学へと進ま
れた方を意味しています。当時甲南大学はま
だ開校されておらず、五介さんは神戸大学に
進学されました。

五介さんは、6男2女の5男、これで甲南山岳
部の伊藤4兄弟の、新一（昭和8年卒）、収二（昭
和11年卒）、文三（昭和15年卒）の皆さんが亡く
なれたこととなります。因みに、兄弟部員の多か
った甲南山岳部で兄弟4人が在籍された例は田
口一郎、二郎、三郎、六郎さんがいます。こんな
山岳部も珍しい。

伊藤家のことで存じ上げていることは、父上長
蔵氏が日本のゴルフ界の著名な草分けのお一人
で、名門コース「広野ゴルフ倶楽部」の創始者、そ
して日本初のゴルフ雑誌「阪神ゴルフ」を出版され

たこと（大正10年）、戦前のお住まいが六甲山麓
で、かのW.M.ヴォーリズの設計になる、洋風豪邸
だったこと（中村純二“伊藤文三さんを偲んで”
『TUSAC News 2012年秋季号』東大山の会）など。
6男で神戸在住の六友さんはご健在で、甲南では
なかったが、小生と同学年で、やはり趣味を通じ
た交友があり、先日電話でお悔やみ申し上げたと
ころです。

五介さんは、先に亡くなられた福井グリーンさんと
同様、小生にとってはラグビー部と山岳部の両方
の大先輩でした。関東住まいになってからは、共
通の趣味であるトラッド・ジャズ、ハワイアン、カント
リー、ブルーグラスなどのライブでご一緒させて頂
くことも多々ありました。歌がお上手で、興に乗れ
ばウッド・ベースを弾きながらジャズのスタンダー
ド・ナンバーを披露されることも。一昨年、病を一
時回復された後のカントリーのライブでお会いした
折に、笑顔で「もうアカンわ」とおっしゃっていたの
が最後となってしまいました。ライブ終了後少しは
お話し出来るかと思っていたのですが、お疲れが
出て中座されており、その機会を逸しました。寂し
さ一入です。



2001.8.2. 恵比寿ガーデンプレイス「ブリアン」にて
東京甲南会ビアパーティに出席した山岳部OB

神戸大卒業後、神戸銀行勤務を経て、外食産業に転身されました。神戸の「ブーン」、東京へ出て来られてからは、ステーキ「みその」、割烹「大和館」のシェフ。この方面でも随分お世話になったものです。東京甲南山岳会がほぼ毎年懇親会で集まっていたころ、その会場選びでもよく相談に乗ってもらいました。

目次

平井吉夫の思い出



●平井吉夫の著書・翻訳書

〔著書〕

任侠史伝—中国戦国時代の生と死 (河出書房新社) 1999/6/1
スターリン・ジョーク (河出書房新社) 1983/8/1

〔翻訳書〕

クレムリンの敗北—いかにユーゴはソ連に抵抗したか (1981年) ウラディミール・デディエ
河出書房新社 1981/9/1
神託—古代ギリシアをうごかしたもの (1982年) P. ファンデンベルク、河出書房新社 1982/11/1
白い殺意の異邦人 J. M. ジンメル、中央公論社 1985/7/1
白い悪夢の実験室 J. M. ジンメル、中央公論社 1988/10/1
コマンド・フェイスの復讐 (新潮文庫) ユルゲン ベツェル、新潮社 1989/12/1
ネロ—皇帝にして神、芸術家にして道化師 フィリップ ファンデンベルク、河出書房新社
1990/5/1
ハルツ紀行作戦 (新潮文庫) ベルト ジュルツァー、新潮社 1991/2/1
40歳からの魅力 (河出文庫) スザンナ クベルカ、Susanna Kubelka 他 1992/12/1
ひばりの歌はこの春かぎり J. M. ジンメル、Johannes Mario Simmel 中央公論社 1992/12/1
石と笛 (13) ハンス ベンマン、Hans Bemann 河出書房新社 1993/5/1
乙女の祈り (新潮文庫) ニコラウス ガッター、Nikolaus Gatter 1995/8/1
鏡の中の言葉 ハンス ベンマン、Hans Bemann 河出書房新社 1995/8/1
図説 超古代の謎ロエル オーストラ、トニー モリソン 河出書房新社 1997/10/1
あるベルリン・フィル楽員の警告ヴェルナー・デーリヒェン、音楽之友社 1998/12/10
わが道はチベットに通ず—盲目のドイツ人女子学生とラサの子供たち サブリエ テンバーケン
Sabriye Tenberken 風雲舎 2001/10/1
オサマ・ビンラディン—野望と実像 (日文新書) ミハエル ボーリー、ハリド デュラン 日本文芸
社 2001/11/1
殺雲のタンゴ (Hayakawa novels) ヴォルフガング フライシュハウアー、Wolfram Fleischhauer 早
川書房 2002/10/1
イエスのビデオ (ハヤカワ文庫 NV) アンドレアス エシュバッハ、Andreas Eschbach 2003/2/1
ドクトル・マブゼ (ハヤカワ・ポケット・ミステリ) ノルベルト・ジャック、早川書房
2004/7/8
忘れられた島 (ノーチラス号の冒険 1) ヴォルフガング・ホールバイン、創元社 2006/4/4
アトランティスの少女 (ノーチラス号の冒険 2) ヴォルフガング・ホールバイン、創元社
2006/4/4
深海の人びと (ノーチラス号の冒険 3) ヴォルフガング・ホールバイン、創元社 2006/7/3
恐竜の谷 (ノーチラス号の冒険 4) ヴォルフガング・ホールバイン、Wolfgang
Hohlbein 2006/10/1
海の火 (ノーチラス号の冒険 5) ヴォルフガング・ホールバイン、創元社 2007/1/17
カルーソーという悲劇 (創元推理文庫) アンネ シャプレ、Anne Chaplet 2007/5/1
黒い同胞団 (ノーチラス号の冒険 6) ヴォルフガング・ホールバイン、創元社 2007/5/23
石と化す疫病 (ノーチラス号の冒険 7) ヴォルフガング・ホールバイン、創元社 2007/10/23
灰色の監視者 (ノーチラス号の冒険 8) ヴォルフガング・ホールバイン、創元社 2008/3/8
失われた人びとと街 (ノーチラス号の冒険 9) ヴォルフガング・ホールバイン、Wolfgang
Hohlbein 2008/6/1
世界王室物語—素顔のロイヤル・ファミリー ギド クノッブ、悠書館 2008/7/24
火山の島 (ノーチラス号の冒険 10) ヴォルフガング・ホールバイン、Wolfgang
Hohlbein 2008/10/1
氷の下の街 (ノーチラス号の冒険 11) ヴォルフガング・ホールバイン、Wolfgang
Hohlbein 2009/2/1
ノーチラス号の帰還：ノーチラス号、最後の大冒険 II (ノーチラス号の冒険 12) ヴォルフガング
ホールバイン、平井 吉夫 2009/6/18

裸の山 ナンガ・バルバート ラインホルト・メスナー、山と溪谷社 2010/10/8
王家を継ぐものたち—現代王室サバイバル物語 ギド クノッブ、悠書館 2011/2/10

秋の集会 (平成30年秋)

名誉会員

平井 一正 (名誉会員)

最近心臓の調子が悪く、検査の結果、手術することになりました。高齢になると故障が起きます。皆様にどうかよろしく。

旧制高校

赤松 二郎 (旧 14 理)

主人は昨 2017 年 6 月末から徒歩 10 分の特別養護老人ホームへ入居しております。車椅子生活ですが、まずまず平穩に暮らしております。山獄寮も一緒に拝見しております。駒王でのお集まり懐かしく思い出しております。ご盛會を祈ります。

福井 亨 (旧 24 理)

いつもご案内を頂きながら、返事もせず、大変失礼しました。小生今年で 91 才になり遠出も余り出来なくなってきましたので、会合には出席できません。従って、今後集會の案内は省略をお願いします。諸先輩を始め皆様に宜しく願いいたします。

新制高校

北方 龍一 (新高 30)

年令並みに元気です。相変わらず自然エネルギー関係のボランティアで県下を回っています。

丸山 霽茂 (新高 33)

イナカで元気しております。今回も欠席申訳ありません。皆様に宜しく。

山城 國暉 (新高 36)

お蔭さまで元気しております。

福田 裕久 (新高 45)

孫が 3 人になり、週 1 回程度我が家に来てにぎやかに暮らしております。

松下 弘幸 (新高 54)

相変わらず米国と日本を行ったり来たりしております。皆様によろしくお伝えください。

白川 浩平 (新高 H2)

5 月の連休に神戸に帰った時、犬の散歩がてら甲南バットレスへ行ってきました。最近あまり登られている様子も無く、樹木が茂り鬱蒼と薄暗い雰囲気です。「忘れられた岩場」となっていました。

大 学

砂川 彰雄 (大 32 経)

腰痛に加え胸椎骨折の為、動きが取れません。残念ながら欠席いたします。

宮本 侑 (大 32 経)

ほとんど外出しなくなりました。宜しくお願いいたします。

鈴木 頼正 (大 33 経)

猛暑が続きましたが、少しは涼しくなり、ほっとしています。目下、体調を整え、秋の集會に出席すべく頑張っています。甲南山岳部の皆様とお逢いできることを楽しみにしています。

伊丹 弘忠 (大 35 経)

元気にしております。都合が悪く、欠席します。

伊藤 久三郎 (大 36 経)

毎日病院通いを続けております。皆様に宜しくお伝えください。

越田 和男 (大 36 理)

酷暑に参っています。山の残雪も少ない様で、今後どうなるのか心配ですが、甲南山岳部の行く末と同様、如何ともしがたし。(ハガキを出しそびれうちに猛暑が終わり、涼しくなった!)

田中 孜 (大 36 経)

現在、股関節手術後のリハビリ中で残念ですが出席できません。皆様によろしく。

飯田 進 (大38 経)

他に所用有り残念ながら欠席いたします。ご出席の皆様に宜しく。

二谷 和成 (大38 経)

今年の夏の猛暑で熱中症かと思っていたら大腸がんが見つかり8月8日に手術しました。思うように体力は戻りません。

武田 雄三 (大39 経)

元気にしております。

森本 全彦 (大39 法)

山岳会には顔を出しておりませんが、この夏、同期だったコン松(小林史明)君と50年振りで会いました。彼は長崎から入学し、理学部で2年の時退部。山登りはやってない由。今年は伊吹山に夜間登山をただけです。元気にやっています。

村上 与利一 (大39 営)

木曽福島は思い出の地、我がファミリーで一度は訪ねたいところです。残念ながら日が合わないです。

福田 信三 (大39 理)

老いの頑張りという事で、カヤック、ヨット、ボーリング、シュノーケリングを再開。しかし、パッパと体が動かず、無理をするとこむらがえり、更にイライラ、故に登山は無理とおもっています。ガイド付きならばどうかという思いです。年上の元気な方が励みになります。

伊丹 德行 (大40 法)

秋は「秋の集会」「会社時代の同窓会」「小中学の同窓会」と続きます。身体に気を付けて出席する予定です。

鶴木 洋 (大40 文)

ずっと病院ですが持ち前の体力で暑い夏も乗り切っています。(娘より)

井上 徹 (大41 営)

いつもご苦労様です。のんびりと伊豆の天城山麓で自然とゴルフを楽しんでいます。今は(8/16)自宅の畑で西瓜がゴロゴロと収穫を待っています。今年は豊作で約20個できました。

柏 敏明 (大41 経)

所用の為、残念ながら欠席します。ご盛會を祈ります。6月にクロアチア・アドリア海でクルージングを堪能し、スイスのジュネーブ、シャモニーを経由して帰国しました。8月はシンガポールで孫のお守り、9月藤沢、11月下旬から12月中旬に、またシンガポールへおさんどん。忙しいことは有難いことと感謝しています。

國分 廣昭 (大43 経)

元気です。川村さんと一緒に車でいきます。帰りは八方へ行くつもりです。

頼富 信輔 (大43 法)

ご無沙汰しております。いつもご案内有難うございます。最近の高い山は行けていませんが、四国の山をぼちぼち登っています。近いうちに皆様とお目にかかりたいと願っていますが今回は失礼します。

森岡 宏光 (大43 理)

小生も6月で73才になりました。私の勤務先も働き方改革で定年も延長しました。最長80才までです。まず健康に気を付けて77才まで頑張りたいといつも思っていています。皆様もいつまでも健康にまとめてください。以上。

赤田 正和 (大44 理)

出勤と行事が重なり欠席します。山は仕事で社有林巡回しています。最近の天災(人災)で作業道の崩壊があつて、その復旧に注力しています。後任にバトンタッチができなくて未だ現役を続けています(笑)。日曜日は毎朝「宮城遥拝の会」毎月一回「一同会」「不二歌道会」「日の丸行進」で右翼してます。

石原 浩二 (大44 里)

時々、立山に登っています。

南里 章二 (大45 理)

いつもながらのご連絡有難うございます。日程が私が担当する講座の日程と重なり、残念ながら出席できません。皆様に宜しくお伝えください。

杉原 久夫 (大46 理)

いつもお世話になり有難うございます。

井上 知三 (大48 文)

ぼちぼち頑張っているのですが、昨年から二男も東京なので家内と二人暮らし、好いような悪いような微妙な生活ですネ。集合住宅の理事からも解放されましたので何かと自由に遊べるようになってホッとしています。これから山歩き・スキーと楽しみです。先日、家内と乗鞍・上高地を散策してきました。

平井 幹男 (大50 文)

仕事は今年から週3日間で働いています。早く仕事を辞めて自由になり、山登りを再開させたいです。今年もよろしく願いいたします。

村田 信一 (大50 経)

いつも有難うございます。教会行事と重なって参加できません。マイペースで自営しながら、よく遊び、よく学びを実践するようにしています。初夏のフランスを巡って来ました。帰ってから日本の暑かったこと。… 皆様ご自愛ください。

中澤 章治 (大50 文)

5月の連休に丹波の白髪岳に登りました。只今丹波移住計画を練っているところです。当日は祭りの真最中で予定日が変更にならない限り出席は無理です。申し訳ありません。

西村 清 (大51 経)

9月から10月は決算事務とイベントが重なって多忙を極めております。

大柳 香代子 (大51 法)

TVの山番組ばかり見て、夢の山行をしています。

松下 哲夫 (大52 理)

8月末に劔岳に行ってみました。雷鳥沢から強風雨で劔沢へ。テントはびしょ濡れ、中は水溜まりで散々な目にあい撤退。劔岳は一度も見えませんでした。

要 裕晶 (大55 営)

皆様お元気でお過ごしのことと存じます。今回も伺えませんが盛會を祈念しております。

住友 健時 (大55 法)

いつもお世話かけます。折角ですが今年も帰国の予定ありませんので欠席します。元気に過ごしております。皆様に宜しくお伝えください。

山本 恵昭 (大56 理)

8月にアイスランドのロイガヴェーグルというトレールに行ってきました。荒涼とした大地で、地球の鼓動を感じました。最終日以外すべてキャンプ生活。キャンプ文化が進んでいて、快適生活でした。

川野 幸彦 (大56 理)

お世話になります。皆様、いかがお過ごしでしょうか。私は、昨年痛めたヒザの具合が今ひとつで、山登りから遠ざかっております。早く治して復帰したいと思います。皆様に宜しくお伝えください。盛會をお祈りいたします。

八木 健 (大58 経)

毎回ご案内有難うございます。先日、青森の八甲田山～奥入瀬～十和田湖へ行ってきました。恥ずかしながら登る山より見る山のほうが多くなってきました。ご盛會を祈念申し上げます。

西名 俊英 (大61 理)

家族で外浦海岸への海水浴、丹沢へのキャンプは続けております。また、人生100年、リカレント教育よろしく心理学をかじっています。いくつものテキストで中井久夫さんが参考文献にあげられており、尊敬の念を持ちました。記憶がとても怪しいのですが東先輩と私が屏風岩へ向かう途中の徳沢でお目にかかった気がしております。学会の後、有志で徳

本峠を越えたと仰っていたような。お元気にされているでしょうか？

松山 弘和 （大61 理）

今年の4月に滋賀事業所から小牧事業所（愛知県）に移動により単身赴任を解除されました。

松成 健 （大H8 文）

仙台に来て6年目になりました。月～金まで福島県に出張の毎日です。平日の不養生を是正すべく、休日は家の前の公園を6km歩き、1000段の階段を往復しております。70

kg台になったら冬山にいきます。冬に向けて食事制限も時々やっています。

谷 勇輝 （大H20 理工）

ご案内を頂きまして、ありがとうございます。今年の夏は妻と北アルプスの大キレットへ登山に行ってきました。登山はほぼ初めての妻を連れて行ったのでハラハラドキドキでしたが、本人は楽しんでおりました。年に1～2回、今後も継続して行きたいです。



総会・慰霊祭 （平成31年春）

名誉会員

平井 一正 （名誉会員）

当日、別の用件あり出席できません。皆様にどうかよろしく。

神戸 謙司 （顧問）

長らくご無沙汰してすみません。例年4月第3週の土・日は甲南高校バレーボール部大会引率があり出席できません。南里先生からも是非出席をとお声がけを頂き、大変嬉しく有難く存じます。ご盛會を祈念いたします。

特別会員

鈴木 敬吾 （特別会員）

予定が入っており欠席いたします。盛況を祈ります。

旧制高校

赤松 二郎 （旧14 理）

2017年6月から徒歩10分のところにある特別養護老人ホームに入居しており車椅子生活をしております。山嶽寮などは持参して一緒に拝見しております。ご盛會を祈っております。妻 恵美子

新制高校

北方 龍一 （新高30）

何とか年令相応の健康状態です。NPO 法人 PV ネットグローバルサービスで相変わらず六甲川の水車新田に小規模水力発電30KW 設置すべく4年目になります。田辺君も故人となり又後輩も故人が増えサビシクなりました。

平井 吉夫 （新高32）

ご盛會を。

（令和元年5月に逝去されました 編集）

竹原 佑爾 (新高 33)

ご苦労様です。御無沙汰して居ります。皆様に宜しくお伝え下さい。

山城 國暉 (新高 36)

お陰様で元気にしています。

福田 裕久 (新高 45)

今年になって病気が2〜ツ加わりまして余り良い年ではないのかな【平成最後なのに】などと思っています。

前田 和也 (新高 53)

中々遠距離のため種々の行事に参加できません。今は北海道サロマ湖の近くで牛相手の獣医をやっています。近くにお越しの時はお立ち寄り下さい。

松下 弘幸 (新高 54)

元気にしております。皆様にくれぐれもよろしくお伝え下さい。

白川 浩平 (新高 H2)

少しでも運動不足解消にと思いクロスバイクなる軽量の自転車を買ひ、天気の良い日は自転車で通勤しております。

大 学

砂川 彰雄 (大 32 経)

今夏、腰を痛めたことより、歩行が困難となり杖をついて何とか近くは歩いておりますが、遠出は無理で残念ながら欠席です。

鈴木 頼正 (大 33 経)

総会には出席します。翌日の慰霊祭は無理です。よろしくお願いします。いつもご連絡いただき感謝しています。

雨宮 宏光 (大 33 経)

肺気腫で息切れしています。体調が良ければ出席します。

越田 和男 (大 36 理)

慰霊祭にはよう行きませんが、総会のみ出席予定。遠方からの参加者にも楽しく出席したかいがあった様な会にして下さい。

田中 孜 (大 36 経)

股関節の手術の為に引越し、リハビリ・リハビリの毎日です。

藤安 賢一 (大 36 経)

入院しておりますので失礼致します。

二谷 和成 (大 38 経)

昨年8月の大腸がん手術後一層体力が低下しました。総会には出席させていただきます。

福田 信三 (大 39 理)

HP・掲示板で皆様のご活躍を見せていただいております。うまくて安い店を見つける、友人を招いて食事を作る、映画を観る等がいつもの行動です。

武田 雄三 (大 39 経)

幹事役の皆様に感謝。皆さんとお会い出来るのが楽しみです。

森本 全彦 (大 39 法)

甲南山岳会も世代交代がやってきた感じがします。この冬は近場のスキー場で2時間から3時間程滑ってのゲレンデスキーを楽しみました。年の割には元気にやっております。

鶴木 洋 (大 40 文)

ずっと病院でがんばっています。病室からは金甲山と貝殻山しか見えませんが…。

【娘より】

井本 洋 (大 40 理)

元気にやっています。

安井 正 (大 40 経)

いつもお世話になります。ありがとうございます。

伊丹 徳行 (大 40 法)

幹事さんご苦労さまです。大変遅くなりました。今年も阪神電車主催のウォーキング20ルートに参加する予定です。77才今年も頑張ります。

柏 敏明 (大 41 経)

幹事の皆様、いつもお世話をして頂きありがとうございます。3月下旬から4月中旬まで

長女の在住する藤沢に行って来ます。東京の山岳会の皆様とお会い出来ることを楽しみにしております。

井上 徹 (大41 営)

数年前から肺気腫をわずらい注意していたのですが、2月初めに極寒の北海道に出かけ、肺炎にかかり約1ヵ月、好きなゴルフも出かけられず、もっぱら室内競技の麻雀を楽しんでいます。週2回のペースでとったりとられたりです。

頼富 信輔 (大43 法)

いつもご案内ありがとうございます。残念ながら仕事の都合で出席できませんが、ご盛会をお祈り致します。

國分 廣昭 (大44 経)

よろしくお願い致します。

岸田 昌雄 (大44 文)

申し訳ありません。体調不良の為検査の日々を過ごしております。

赤田 正和 (大44 理)

当日4/20 決算在庫で東京出張です。残念ですが盛会祈念します。社有林担当で交代の時過ぎていますが適当なのがいけません(笑)。台風等の復旧(作業道等)に注力しています。4/4 横尾山(和泉市)で危ういところでした。迷いました(笑)。来週は4/15~16 日山の山に行きます。

石原 浩二 (大44 理)

時々山に登っています。役員の方々に感謝しております。

南里 章二 (大45 理)

20日(土)の総会、3時まで大阪で講義の為1時間ほど遅れて参加します。会員の皆様方の元気なお顔拝見出来るだけで満足です。

矢吹 操 (大45 理)

元気です。いつも案内状有りがとう。まだ会社員です。3月~5月は決算・入社式・表彰式・春闘団交・株主総会など準備、本番と一

年間で一番忙しい時です。なかなかゆっくりできません。

杉原 久夫 (大46 理)

いつもお世話になっております。毎回頂いております案内状ありがとうございます。さて、私自身古希も過ぎ、参加することも無いと思いますので、今回を持ちまして今後の案内状を辞退いたしたく思います。長きにわたり有難うございました。心よりお礼申し上げます。今後のますますの発展をお祈り申し上げます。

井上 知三 (大48 文)

少し泣き言??? 何かとミスが増えてきている年令のせいか・・・ 平井会長が任期の間は頑張ろうと思いますが、とにかく早く事務担当から解放されたいです。近隣の山へは時々登っています。

平井 幹男 (大50 文)

早く仕事にケリをつけて自由になって、又山に行き思うがままに登ってみたいと考える今日このごろです。

高橋 けいこ (大50 文)

お世話になっております。昨年暮れの“蕨内君を偲ぶ会”では久しぶりに先輩・後輩の皆様と会え、その中に蕨内君の笑顔、ヒナコの笑顔にもで会えたようなひとときでした。ありがとうございます要君!!大森君!!

中澤 章浩 (大50 文)

本年2月に66歳を迎えましたが、後進が中々育たない為め第2の人生を送れそうもありません。4月の連休には近場の山に挑戦してみようと思いますので時間がある方はお誘いください。

村田 信一 (大50 経)

いつも有難うございます。復活祭の行事のため参加できません。最近駅が出来たり【城北公園通り】、初孫が誕生したり慶事が続いています。6月のチャリティーコンサートに向けて、聖歌の練習に励んでいます。

早川 栄二 (大50 経)

昨年4月に米国より帰任し今年には是非参加したいと思って調整しておりましたが大阪には6月中旬に行く予定になったので、申し訳ありませんが欠席させて下さい。皆様に宜しくお伝え下さい。

洪谷 一正 (大51 営)

昨年、5月の前立腺ガンの手術以来、オシメをして仕事をしています。何か良い対策があれば、諸先輩方に教ををこいたと思っています。

大柳 香代子 (大51 法)

ここ数年冬の上高地に入り雪の山々を拝んでいます。あまりに手軽に入山でき嬉しいばかりです。5月末のニリンソウと年2回の上高地行はやめられそうにありません。

松本 好博 (大52 法)

出欠の連絡遅くなってすみません。元気ですか？大阪万博2025年終了後に仕事をリタイヤする予定です。山旅はそれから楽しむ予定です。

松下 哲夫 (大52 理)

今年も元気に山歩きが出来ます様に、努力しています。

大森 雅宏 (大53 文)

ご案内ありがとうございます。身内に高齢者がおりなかなか家を空けられず、山登り・地べた生活から離れています。

鳥井 陽子 (大54 文)

いつもご案内いただきありがとうございます。新緑の六甲山で皆さんにお目にかかるのを楽しみにしております。

住友 健時 (大56 法)

帰国予定がありませんので欠席させて頂きます。皆様によりしくお伝え下さい。元気にしています。他事ながらご休心下さい。

山本 恵昭 (大56 理)

暖冬でとても雪が少ないかと思えば3月下旬になっての冷え込み続き山へ持ち込む道具を選択するのも迷うし、山菜をねらうタイミン

グも読みにくい。向こうが変だなと思いつつ、自然のわずかな変化を読み取る力が試されていることを楽しんでいます。

川野 幸彦 (大56 理)

皆さんお元気ですか。4月から名古屋に転勤となります。定年まで残り2年です。最後の頑張りどころです。また、大阪の住まいも変わりました。お手数ですが住所変更をお願いします。5月連休は立山に登る予定です。2年ぶりの北アルプス登山です。皆様によりしくお伝え下さい。

新住所

八木 健 (大58 経)

毎回御案内ありがとうございます。皆様から見れば、依然青二才でしょうが今年60才を迎えます。心機一転を考えますが、行動に移せずの状況です。両日とも予定が入っており欠席させて戴きます。盛会を祈念申し上げます。

西名 俊英 (大61 理)

いつもご案内ありがとうございます。私の高校山岳部の同期の松川(大阪府大山岳部OB)が2年前に亡くなっていたと知らせがあり絶句。お彼岸に須磨寺で供養してきました。いつでも会えると思っていた仲間を失い、心が痛みます。

松山 弘和 (大61 理)

総会は欠席ですが、秋の集会は参加の予定です。よろしくお願い致します。

阿部 康彦 (大H6 法)

この一年は山行きはなく、ゲレンデのクライミングのみ楽しんでおります。

松成 健 (大H8 文)

今年から岩手と秋田の県南の担当になりました。6年間の福島でのホテル暮らしから単身赴任となり、ようやく同じ枕で寝る事が出来るようになりました。雪深い地域ですのでスキーを楽しもうと考えておりましたが、今シー

ズンは1回しか行けませんでした。来シーズンは何度か行けるようにします。

谷 勇輝 (大H20 理工)

ご無沙汰しております。昨年2018年4月から人事異動のため、現場を離れカレンダー通りの休みの日勤となり、平日の空いている岩場や氷に行けなくなりました。ホームページ担当として皆様のご要望にお答え出来ず、ご迷惑をおかけしております。



ご遺族

本田 依子 様

ご案内ありがとうございます。残念ながら腰痛治らず歩けません。教会で祈らせていただきます。【21日はイースターです】皆様お体をお大事に

乾 恵美子 様

いつもお世話になりありがとうございます。今年も何とか元気で参加させて頂くのを嬉しく思います。2月にはタイでゴルフ、その後3月にかけて南スペインの教会建築を訪ねる旅に出ておりました。年々老いを感じますが、山歩きができたり、旅行が出来ることに感謝しております。ご迷惑をおかけするかもしれませんが、今年もどうぞよろしくお願いいたします。

横山 嘉壽子 様

ご案内ありがとうございました。今年は主人洋の17回忌でした。時の経つ速さに驚いております。今年も砂川親子が参加したかったのですが所用の為、欠席とさせていただきます。

樋口 雅子 様

いつも慰霊祭のお誘いを頂きましてありがとうございます。又 山岳部の皆様にはお世話になりました。心より感謝いたしております。祖父 慶太も今年17回忌を迎えました。お仲間の皆様のご健勝とご活躍を祖父と共に心よりお祈りいたしております。今年2年ぶりに湧太が参加させて頂きます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

出欠ハガキの「会員短信」

総会・秋の集会ご案内は甲南山岳会会員全員にお送りしています。出欠連絡に併せてぜひ近況を「会員短信」でお知らせください。お寄せいただいたコメントは、ほぼ全文掲載しています。

報 告

秋 の 集 会

担当 渋谷一正

日 時 平成30年10月6日(土) ～ 7日(日)

場 所 木曽駒文化公園内宿泊施設「駒王」(長野県木曽郡日義村)

次 第 10月6日 受付 夕食・懇親会

10月7日 朝食 記念撮影 部歌斉唱【山の歌】

出 席	鈴木敬吾 特別会員	雨宮宏光 大33経	鈴木頼正 大33経	越田和男 大36理
	二谷和成 大38経	武田雄三 大39経	安井 正 大40経	伊丹徳行 大40法
	塩崎将美 大41経	浪川純吉 大42営	國分廣昭 大43経	石原浩二 大44理
	山本眞博 大48理	井上知三 大48文	平井幹男 大50文	渋谷一正 大51営
	松下哲夫 大52理	大森雅宏 大53文	山本恵昭 大56理	松山弘和 大61理
	川村静治 新高40			



10月6日(土)、7日(日)の日程で木曽福島の駒王で秋の集会を行いました。台風25号により心配された天気も大きな影響はなく21名の会員が集合し、楽しい一夜となりました。
来年は10月19日(土)を予定しています。

平成31年度山岳会総会

担当 井上知三

日 時 平成31年4月22日(土)

場 所 平生記念館

出席	鈴木頼正 大33経	越田和男 大36理	田中 孜 大36経	牧野 宏 大36経
	二谷和成 大38経	武田雄三 大39経	安井 正 大40経	伊丹徳行 大40法
	柏 敏明 大41経	浪川純吉 大42営	國分廣昭 大43経	南里章二 大45理
	平井幹男 大50文	高橋けい子 大50文	中澤章浩 大50文	渋谷一正 大51営
	松下哲夫 大52理	大森雅宏 大53文	豆田隆志 大56法	山本恵昭 大56理
	谷 勇輝 大H20理工	川村静治 新高S40		

議 事

- | | |
|------------------|-------|
| 1. 会長挨拶 | 平井 幹男 |
| 2. 平成 30 年度 事業報告 | |
| 1) 慰霊祭 | 松下 哲夫 |
| 2) 木曽福島 集会 | 渋谷 一正 |
| 3) 山嶽寮 | 平井 幹男 |
| 4) ホームページ | 谷 勇輝 |
| 5) 大学山岳部の現状【摂津会】 | 平井 幹男 |
| 6) 中高山岳部の現状 | 平井 幹男 |
| 7) 会計報告 | 山本 恵昭 |

各報告は異議なく承認されました

3. 平成 31 年度【令和元年度】事業予定

- | | |
|----------------|---------------------|
| 1) 慰霊祭 | 松下 哲夫 |
| 本年度物故の方々 | |
| 故 武田六郎様【旧理 13】 | 故 小川守正様【旧理 17】 |
| 故 丸山照夫様【旧文 25】 | 故 伊藤五介様【S24 旧高 1 修】 |
| 2) 秋の集会 | 渋谷 一正 |
| 3) 山嶽寮発行 | 平井 幹男 |
| 4) ホームページ | 谷 勇輝 |

- | | |
|--------------|-------|
| 4. その他 | 平井 幹男 |
| 1) 会費繰越金の件 | |
| 2) 山岳会の今後と展望 | |
| 3) 会費徴収の件 | |
| 4) 三校会の報告 | |

平成 30 年度 会計報告

上記のとおり報告します。

監査の結果、適正に処理されたと認めます。

会計担当 山本恵昭

会計監査 平井幹男

平成 30 年度 会費を納入された方々

武田六郎 旧13理	赤松二郎 旧14理	鷲尾 顕 旧15文	小川守正 旧17理	伊藤長次郎 旧21理
前田金剛 旧24理	米山悦朗 新高S29	川村静治 新高S40	坂田茂樹 新高S42	滝原 順 新高S42
山本千秋 新高S42	松下弘幸 新高S54	白川浩平 新高H2	阿部公義 大32経	砂川彰雄 大32経
雨宮宏光 大33経	鈴木頼正 大33経	伊丹弘忠 大35経	鳥居威男 大35経	越田和男 大36理
伊藤久三郎 大36経	田中 孜 大36経	廣瀬健三 大36経	牧野 宏 大36経	飯田 進 大38経
二谷和成 大38経	岡田英暉 大38営	福田信三 大39理	武田雄三 大39経	村上興利一 大39営
森本全彦 大39法	鶴木 洋 大40文	井本 洋 大40理	竹中統一 大40経	安井 正 大40経
水渡清夫 大40営	伊丹徳行 大40法	柏 敏明 大41経	塩崎将美 大41経	井上 徹 大41営
浪川純吉 大42営	上本武夫 大42法	鈴木敬吾 大43理	國分廣昭 大43経	頼富信輔 大43法
赤田友則 大44理	石原浩二 大44理	南里章二 大45理	矢吹 操 大45理	井上知三 大48文
山本真博 大48理	平井幹男 大50文	高橋けい子 大50文	中澤章弘 大50文	渋谷一正 大51営
松本好博 大52法	松下哲夫 大52理	大森雅宏 大53文	鳥井陽子 大54文	要 裕晶 大55営
豆田隆志 大56法	山本恵昭 大56理	青木雅夫 大57経	八木 健 大58経	西名俊英 大61理
松山弘和 大61理	阿部康彦 大H6法	松成 健 大H8文	森本寛之 大H19理工	谷 勇輝 大H20理工

(敬称略 終身会員・令和元年度以降納入を含みます)

慰 霊 祭

担当 松下哲夫

本日も天气に恵まれ、慰霊祭を実施しました。 平成31年4月21日(日)

参加メンバー

國分さん(大43) 石原さん(大44) 南里さん(大45) 平井さん(会長 大50)
渋谷さん(大51) 大森さん(大53) 鳥井さん(旧姓村岸大54) 山本さん(大56)
川村さん(新高40)

ご遺族

乾恵美子さん(乾卯兵衛さん:新高37)の奥様
樋口湧太さん(香月慶太初代会長:旧5)の曾孫様
河原崎裕子さん(小川守正さん:旧17)のお子様
皆様ご参加有難う御座いました。



ご参加のみなさん

山行と集い その他もまとめて一括掲載

平成30年4月～平成31年3月の掲示板書き込みから (構成) 大森雅宏

雪桜 山本恵昭 平成 30 年 4 月 8 日

神鍋高原に行っていました。7日、雨雲の合間に綺麗な虹が。とても近くに感じました。8日、朝目覚めると、一面の銀世界。ちょうど満開に桜に雪が積もって、初めて出会う雪桜。



慰霊祭(ロックガーデン) 松下哲夫 4月23日

4月22日(日曜日)芦屋川駅10時出発。11時40分レリーフ着。レリーフに合掌し昼食後部歌合唱し現地解散しました。八木さんは仕事の都合で遅れて単独で参加となりました。



参加者(敬称略)、牧野(大 36 卒)、安井(大 40 卒)、石原(大 44 卒)、南里(大 45 卒)、井上(大 48 卒)、平井会長(大 50 卒)、松下(大 52 卒)、大森(大 53 卒)、

山本(大 56 卒)、八木(大 58 卒)、森本親子(大 H19 卒)、川村(高 40 卒)、「ご遺族関係者」乾恵美子様、砂川辰彦様親子(横山さん(大 42 卒))ご参加有難う御座いました。

(無題) 平井吉夫 4月24日

慰霊祭の現場から牧野ドングリ元会長が電話をくれて、一緒に部歌を唱いました。ありがとう。

(令和元年5月に逝去されました編集)

雁ヶ腹摺山 越田和男 5月1日

先日、例によって腰痛をだましながらのよちよち里山の歩きの延長で、山梨の雁ヶ腹摺山(ガンガハラスリヤマ1857m)に登ってきました。関西の方には馴染みのない変てこな名前の山ですが、五百円札の裏に書かれた富士山がここからの写真ということで有名です。今回ばっちり眺めてきました。標高差320m登り標準タイム1時間のところを倍の2時間かかり、下りも一寸した鎖場の下降に難儀したりして、やはり2時間かかりました。浪川あたりにまた笑われそうですが、約30年ほど前に甲南の仲間(平井、大関、飯田)と登った時は、登り60分下り40分でした。若かったです。情けないことに、これからはもつと緩やかな遊歩道のついた里山歩きに限定せねばなりません。



(無題) 平井吉夫 5月1日
コッシン、偉い。あの腰で、よう雁が腹摺りに登った。
ほんまに偉い。

雁ヶ腹摺山 飯田 進 5月4日
1989年11月4日登ってます。小生の個人投稿欄
見てください。でもよく登る気になりましたね。偉
い！

スズコキャンプ 山本恵昭 5月6日
天気が荒れる予報だったので、連休の北アルプス
行きは中止しました。そのかわりに昨日氷ノ山にス
ズコの下見に行ってきました。ブナの新緑が鮮や
か。スズコももう既に出始めていました。暖かいの
で例年より早いですね。いつもの宴会場所も綺麗
でした。ということで、スズコキャンプを5月19,20日
に行おうと思います。19日10:00に大段が平に集
合をお願いします。夕方、宴会からの参加も歓迎
です。参加される方は、掲示板等でご連絡下さい。

雨のスズコ 大森雅宏 5月20日
山本お誘いのスズコキャンプ、行ってきました。雨。
年々しんどくなりますが、まあ修行と思って。いつも
の場所で宴会だけご参加のみなさんと合流、時間
を忘れて飲みました。修業は帰ってからも。採って
きたスズコ、皆さん奥ゆかしく少ししかお持ち帰りにな
りません。そんなわけで、残ったスズコ、家で
黙々と皮むき。修業。御参加のみなさん、左から、
塩崎・安井・武田・柏・山本の各氏、右端大森。



楽しかったです 柏 敏明 5月20日
山本さん、昨日、今日と、すっかりお世話になり有
難うございました。宴会用だけでなく、お土産に頂
くほど沢山のスズコを、雨の中、申し訳ありません
でした。お蔭で、スズコ料理にユーさん差し入れの
シカ肉、美味しいお酒、色んな話。楽しかったです。
帰りにヤッさんと塩さんとで、生野町の黒川ダムに
寄って来ました。帰って調べると、ロックフィルダム
と云うそうですが、岩を積み上げて作った一見の価
値ありのダムです。近くに温泉もあり、是非、足をの
ばして下さい。

スズコキャンプ 山本恵昭 5月20日
6月19日大段が平は雨、しかもとても寒い。大森さ
んと二人で山に入る。もう、いつもの神戸大小屋周
辺まで上がるのはやめにして、大段が平のすぐ上
でスズコ採り。さすがによく人が入るようで、採られ
た跡が一杯。細いものが多いので、ある程度採っ
てからは太い物だけを厳選。気が付けば、大収穫。
いつもの宴会場所に着く頃には、雨も止み気味に。
ひたすら皮のムキムキ作業に飽きたころ、湯がいた
スズコのマヨネーズ和え、カツオ醤油、ワサビ。持
ち寄っていただいた鹿肉、ワッフル、水ナス、フキ
山椒、そしてワインと焼酎で、宴会スタート。最後は
鍋に。私は飲みすぎて、いつのまにか車に入って
熟睡。20日早朝散歩のついでに破竹タケノコ採り。
道の近くで2本見つけ、上に登ればもっとあると思
いきや、猪の足跡と掘られた穴だらけ。葉山椒も採
取してお土産に。鍋の出汁で雑炊を食べて解散。
天気には恵まれませんでした。いつもお元気な
皆様に集まっていた頂き、ワイワイと楽しい時間を
過ごすことができました。ご参加の皆様、有難うご
ざいました。

中井久夫全集 越田和男 5月21日
中井久夫先輩(昭和27年新高)の全集第6巻の紹
介記事が5月19日(土)朝日の書評に掲載されて
いましたので、添付しておきます。



大峰釈迦が岳

山本恵昭 6月18日

この土日は、梅雨の中休み。土曜の朝から準備をして出発。6月16日、12:20に旭峠の登山口駐車場発。とりあえず登山道を辿り、稜線に出ると登山道と反対方向に尾根を下る。手ごろなコルから枝沢を下って、13:30赤井谷に降り立つ。沢装束に履き替え、谷筋を辿る。兩岸の巨大なミズナラが原生感を引き立てる。穏やかな谷で、次々と現れるナメ滝をジャブジャブと越えていく。淵には大きなアマゴが泳いでいるが、釣り道具を持ってこなかったのので今回は殺生無し。深仙宿への支流を辿り、最後は背の低い笹原を上り詰めると、ジャストで深仙宿のお堂と避難小屋へ到着 17:00。テントも持っているが、他に誰も居ないので避難小屋を独占使用させてもらう。太陽電池によるLED照明があり、スマホの充電もできる。ただし、電波は圏外。囲炉裏があり焚火をするが、煙の逃げ場がないのでスモークド山本になりそうのため、炭火だけ残して薪は外へ出す。酒もなし、御馳走もおやつもなし。時間を持て余して、置いてあったゴルゴ13を読みふける。時々、外で物音がするのでのぞいてみると、すぐ近くに10頭ほどのシカの群れ。ドドッと逃げるが、しばらくするとまた登場。この辺はシカの餌場なのか、朝までその繰り返し。夜は満天の星空、でも寒いのですぐに小屋へ戻り寝袋の中へ戻る。17日5:30発で大日岳の往復約1時間。結構な岩場に鎖が垂れているが、これは修験者専用との看板があり、裏の迂回路から登る。6:30深仙宿に戻り、釈迦が岳に登る 7:30。ここまで来ると結構人に出会う。晴れてはいるが、太平洋からの湿った風が吹くと、尾根上は一気にガスがかかり展望無し。少し下ると、千丈平。水場もあるそうでテントが数張り。登山道を下ると、老若男女が次々登ってくる。人気のルートのような。10:00駐車場へ。11:00オープンの温泉に一番風呂。御所でニンニクのきいた天理スタミナラーメンを食べて、パワー復活。15時過ぎに神戸に帰りました。若い頃、岩場の高度感であり恐怖心を抱いたことがありませんでした。しかし、今回大

(無題)

平井吉夫 5月25日

肺を右も左も癌にやられて、坂道や階段がづらくなり、山登りはできなくなりましたが、ありがたいことに、ほとんど毎晩、登山の夢を見ます。夢の中の登山は疲れることがまったくなく、死んだガチャやコプク、まだ生きているコッシンやポンやドングリやイイチャンが出てきて、目覚めてからも至福感に包まれます。これは、ひょっとしたらボケ現象なのかもしれませんが、眠るのが楽しみになりました。ただし、夢の中の登山は、いつも道に迷って目的地に行きつけません。

若手OBの集まり

塩崎将美 6月7日

有志が新平井温泉に集まりワイワイやりました。



日岳の岩場を覗くとお尻がモゾモゾ。この歳になって、やっと普通のおじさんになってきました。



六甲山のランドマークが消えた？

福田信三 7月10日

六甲山ホテルは2017年末で営業が終了、現在閉館中です。阪急ホテルズが八光自動車工業に譲渡したとのことで2019,2020年頃に新装オープンようです。営業内容などは未定とのことです。旧館を含めて建物などは残るようですが六甲山ホテルの名前は消えました。



酷暑お見舞い

越田和男 7月24日

連日の猛暑日。先週のこ。一寸でもこの暑さから逃れられるかと思って、乗鞍山麓の一ノ瀬と上高地の梓河畔をそれぞれ小一時間散歩しましたが、ヤッパリ暑かった。穂高の残雪の少なさも異常でした。実は、この月初めには、梅雨のないはずの北海道で梅雨前線に停滞され連日の雨。花期もすっかり狂って、見れるはずの花々が見られなかったりで

散々でした。福田信三さんも同じ目に遭われたとか。やっぱり何かおかしいです。



小仙丈沢

山本恵昭 8月7日

大森さんと南アルプスへ避暑に行ってきました。8月4日仙流荘7:15のバスで北沢峠へ8:00。林道歩きで、9:40 小仙丈沢出合。平凡な谷を詰めていって、2000m付近のキャンプ予定地に11:00到着。谷が開けて、薪にする流木も一杯。でも、あまりに早いので、もっと上まで登ることにする。最初の大滝は、傾斜の緩い左岸を登って越える。2番目の大滝は、右岸の支流の滝を登る。傾斜もゆるく、そのまま中段まで登る。そこから上も難しくはないが、高度もあるので念のため残置ハーケンでビレイ。これで核心部は終了。ここから先も感じの良い小滝が続き飽きることがない。まだら模様の15cmくらいのサンショウウオが滝に張り付いていた。2段のカールの下のカールでキャンプ地を探す。適当な平地がない。仕方がないので上のカールまで登り詰めると、ハイマツの陰に平らな場所を見つけテント設営15:30。5分ほど下って水を汲みに行く。前の利用者が集めた薪が山積みになっているが、高山帯なので生態系へのダメージを考えて焚火は自粛。夕方、パタリとにわか雨。稜線がすぐそこに見えていて登山者の声が聞こえていたが、夕方になると誰一人いない。静寂に包まれたこの広いカールの空間を我々だけで独占しているかと思うと、何とも言えぬ満足感。5日6:00発、カールの中で最も傾斜の緩い場所を選んで稜線へ登り上げる6:40。ザックをデポして登山道を辿り、8:00仙丈が岳山頂へ。ツアーの団体客で大混雑。山頂の標識と写

真を撮るのも順番待ちの行列ができています。快晴の空の下、富士山、北岳、間ノ岳と日本の高山ナンバー1～3が並んで見えている。のんびりした後、一気に下山。ツアーの団体さんを小仙丈が岳のトラバース道で抜いていく。膝がガクガクいいた頃、北沢峠着 10:40。バスの便は 13:05 となっているが、28人そろえば臨時便が出るとのこと。しばらく待って、11 時過ぎにバス発車。仙流荘で入浴と昼食。そのあとは渋滞前の高速をひたすら走って神戸へ。

久しぶりの沢登り。釣りも焚火もできなかったのは残念でしたが、滝のしぶきに打たれながら涼んできました。でも帰ってきたら、家は酷暑でした。



コーカサス 塩崎将美 8月11日

米山さんとコーカサスを旅してます。アゼルバイジャンのパクーからジョージアのトレビシを回り陸路アルメニアのエレバンに来ました。昨日は雨でハイキング中止、カズベキ山はガスの中、残念。旧市街や教会それに遺跡、飽きてきました。今日コーカサス最大のセバン湖を見ましたがまわりの山はガスで見えず。明日の天気值得期待です。



Re コーカサス 越田和男 8月11日
羨ましいです。体調良ければ一緒にいたのに残念。晴れ男の塩崎が雨に遭うなんて、一寸ほっとしていますけど。18 世紀末に、かのママリーが試登したシハラなどじっくり眺めて来てください。グルジアワインも是非。

アララト山 塩崎将美 8月11日
やっと見れました、頂上だけ。昔はアルメニアに在り今はトルコ領、アルメニアの人々の心の故郷であるこの山、ノアの箱船で有名です。5137m。写真は米山さん撮影です。



コーカサス 塩崎将美 8月13日
帰国しました。旅の最後の山、アルメニアの最高峰アラガツ山は頭の上は青空カンカン照りだがガイドさんが向こうに見えると言う方だけに雲、全く見えませんでした。帰国の朝ホテルから散歩したらアララト山が全容を見せてくれました。これもクッキリでな

備前楯山 1272m

越田和男 9月23日

性懲りもなくこんな山を歩いてます。備前についてますが、場所は銅山跡の足尾山塊の中心部。江戸時代この地で銅を見つけたのが備前からきた農民だったのが山名の由来とか。足尾地区には小生18年ぶりの再訪。かつてのハゲ山に植林が成功し見事に緑が回復していたのに驚きました。鉱山関係の主要な建屋も今は無く、渡良瀬溪谷と鉱山跡を売り物に、あまり垢抜けしない観光地化が進んでいます。鉱毒問題や、多くの犠牲者を出した過酷な抗内労働の歴史は取敢えず横に置いて、という感じですが。登山口の舟石峠にはちゃんとした駐車場も出来て、そこから小生の足でも小一時間で展望抜群の頂上に。男体山など日光の山々をこの角度から望むのも珍しかろうと思って写真を添付しました。



御山谷沢登り

山本恵昭 9月24日

この連休、大森さんと黒部ダムから立山の雄山に突き上げる御山谷に行ってきました。9月22日早朝に扇沢駐車場に着くが、雨。昼からは晴れるという天気予報を信じて、車内で一寝入り。10時頃、雨も上がったので、トローリーバス乗り場へ。黒部ダムではまだ雨が降っているが、11:00 傘をさしてダム沿いの道を進む。御山谷に出会う頃には雨も上がったので、釣り道具を持ってダムへの流れ込みまで下る。30 cm強のニジマスを確認し、塩をまぶしてキャンプサイトへ持ち上げる。谷には大きな滝もなく、巨岩を右へ左へと渡渉を繰り返して高度を上げ

る。1650mあたりに手ごろな台地を見つけ、テントを設営。周辺を釣り歩くが全く釣れないし、泳ぐ魚影も見かけない。結構釣り師が入っている様子。釣果の追加は諦めて、夕方から焚火三昧。お湯を沸かして味噌汁、はるさめスープ、炙りチキン、炙りサラミ、ニジマスの塩焼き、そして、ウイスキー。23日快晴。熾火に小枝を追加して、ラーメンの朝食。のんびり準備をして、7:45 出発。花崗岩の白い岩に清らかな水、青い空。広々した谷の奥に、獅子岳、鬼岳、龍王岳が聳えている。やがて谷は傾斜を増して小さな幾つかの流れに分れ、その上をダケカンバが覆い藪漕ぎとなる。我慢の歩行を続けていると、カールに出た。一の越や雄山には向かわず、右手のガレ場を登って登山道に合流 14:00。東一の越へと向かう道中の景色は、なかなか優れもの。晴れた空に、後立山、裏銀座、赤牛岳に薬師岳、遠くには笠ヶ岳。黒部平への下りは、結構しんどい。何とか 17:00 の最終ケーブルカーで黒部ダム、そして扇沢へ戻る。



感動

平井吉夫 9月24日

越田、山本両君の投稿を読んで、身体がうずうずしました。今は弱っているけれど、そのうちコッシンの山歩きぐらいはやりたいと願望しています。それまでコッシン、元気でいてください。

八方尾根

川村静治 10月9日

駒王の秋の集会の後、国分さんと八歩池まで行き、池に鏡のように映る白馬三山を見て来ました。あわせて、白馬五竜の高山植物園、マウンテンバイクの盛んな岩岳山上のカフェ、猿倉荘とおびなたの湯、大町市立山岳博物館にも行きました。



甲南山岳会秋の集会 渋谷一正 10月9日

10月6日(土)、7日(日)の日程で木曾福島駒王で秋の集会を行いました。台風25号により心配された天気も大きな影響はなく21名の会員が集合し、楽しい一夜となりました。来年は10月12日(土)を予定しています。



越百岳～空木岳

山本恵昭 10月11日

秋の集会解散後、まだ行ったことのなかった越百岳・空木岳に1泊で行ってきました。地図に点線が描かれているコースなので軽く考えていましたが、結構アップダウンや鎖場もあり、更に林道ズズズで、なかなかハードでした。10月7日伊奈川ダムへの林道に車を進めるが、ダム上駐車場より2kmほど下で通行止め。予定より30分ほど余分に歩くことになる。そして、そのことがこの日の最後に足を引っ張ると思ってもよらなかった。駐車場所を10:00に出発し、快調に飛ばして林道を進む。林道は路肩が大きくえぐられていて、増水した時の水の力は想像を絶する。11:15 林道から登山道に取り付き、樹林帯の中をひたすら高度を上げていく。下界では晴れていたが、山の上は雲に覆われて展望無し。越百山荘 14:15、越百岳に 15:15。ここからの稜線上は思っていたよりアップダウンが多く、なかなかかどらない。南駒が岳に 17:30。夕暮れ近くになって劇的に霧が晴れた。雲の上に夕日が輝き、稜線の岩々が赤く染まる。しばしその景色に包まれて過ごす。ここからは時間との闘い。日没後、追いつめる闇にせかされて、先を急ぐ。18:00 播鉢窪へ下る分岐までは、薄暗い中何とか目を凝らしてたどり着いたが、いよいよ限界。そこからの下降はまさかのヘッドランプ行動。真っ暗な中、播鉢窪避難小屋に 18:20 到着。内部は新しい板張りで、外にはトイレもある。床の4分の1ほどは雨漏りで濡れているが、先客6名で十分余裕がある。少し下ると水場もあるそうだが、もう暗いのでポリタンに汲み置きしてあった水を沸かして使う。夜は満天の星空。8日5:00にヘッドランプを点けて出発。昨日下午った道を登り返す間に、空はどんどん白み、雲海の向こうには南アルプスが連座。5:30 稜線に着くころにはヘッドランプなしで歩けるようになる。赤柳岳で御来光。赤く焼けた峰々を眺めながら道を迎る。稜線上は岩場も多く、鎖場もある。空木岳山頂に 6:50。快晴の空は澄み切って、南アルプスの向こうに富士の頂、八ヶ岳、北アルプス、乗鞍岳、御岳山と、360度の展望。朝日を浴びて、しばらくまったり過ごす。

ここからの下りも鎖場が多く、緊張感がある。8:20 木曾殿山荘。樹林帯の中の道を辿り、最後はひたすら下って、北沢10:30着。かかっている橋は手前側の付け根が崩れ落ちているが、渡ることはできる。少し上り、再び激下り。うさぎ平に11:30着。その後は、ひたすら林道歩き。台風の影響か、枝沢という枝沢に氾濫した痕跡が残されている。林道上に大木が累々と重なり、巨石が転がってガードレールはグンニャリ。足が棒になるころ、伊奈川ダム経由で駐車場所に14:00に到着。沢水で髪をすすぎ、濡らしたタオルで体をふいて、温泉も入らずにひたすらドライブ。しかし、あっちこっちで渋滞に引っかかり、21:30 神戸に帰宅。



初めての六甲山 井上知三 10月21日

先日、好天に誘われて久しぶりの六甲山に行ってきました。前日に家内も行きたいと言いつたのでちょっとビックリ、山歩きはしたことがないそうです。家内の事を考えコースは芦屋川-ロックガーデン-風吹岩-雨ヶ峠-本庄橋-七曲-一軒茶屋-山頂-魚屋道-有馬温泉、このコースは最もポピュラーで逃げ道があるので選択しました。遅めの出発芦屋川を9:40発。遅い出発のせいで人もまばらでした。ロックガーデンを経て風吹岩に11:00に到着、ここで一番目の選択、保久良神社から岡本駅か先に進むか？前進との答え、雨ヶ峠へ11:50着。ここで二番目の選択、東お多福山から下り東お多福山登山口からバスで芦屋川？ここまで頑張ったので最高峰まで行きたいとのこと、ここで軽く昼食、七曲を経て一軒茶屋へ13:10に到着、山頂で2回目の昼食

と長めの休憩・記念撮影その後魚屋道から有馬温泉に15:30に無事下山しました。家内は最初の計画通り初めての山歩きを頑張りました。しかし、初めての山歩きで疲れたようで夕食は居酒屋で反省会も兼ねて美酒で乾杯しました。



有難うございました。 柏 敏明 11月11日

塩崎さん、山本さん、カニキノ会にご参加の皆さん色々とお世話になりました。ナメコ汁、カニ鍋、美味しかったです。午前2時まで、酒を飲み、ダベリ、今朝は久しぶりに二日酔いを味わいました。楽しかったです。有り難うございました。

カニキノ会 山本恵昭 11月11日

カニキノ会に参加の皆様、有難うございました。大山は南斜面に行ったせいかもしれませんが、乾燥気味でキノコは少なかったです。それでも、ムキタケとナメコを少しは収穫できました。カニは高い目だったので1人にセコガニ1匹、鍋に少しだけしました。ニシンの刺身、ハゲの刺身、アオリイカの刺身、ホウボウとハゲの鍋。そして、日本酒、焼酎！塩崎さん、別荘を使わせていただき有難うございました。暖かくて快適、お風呂に入って極楽でした。



大盛況のカニきのこ会 福田信三 11月14日

山本さんの報告を読むだけでも匂い、湯気が漂ってきそうです。ニシンの刺身、初耳です。どんな味かなあ？ いい会ですね、食べる人、呑む人、喋る人、聴いてる人、和んだ雰囲気が感じられますね。皆さん、山本さんに感謝ですね。

秋 飯田 進 11月25日

秋深し散歩の山はなお深し



若狭駒ヶ岳 山本恵昭 11月25日

琵琶湖北部、高島トレイルの中で特にブナ林が美しいという若狭駒ヶ岳に行ってきました。11月24日早朝に車を走らせて、朽木の道の駅で仮眠。寒気が入って、朝になっても雨が降っている。とりあえず、登山口までと車を走らせる間に晴れ間がのぞくようになってくる。木地山集落の近くで、電線にヤマセミが止まっている。カワセミを数倍大きくした体に白黒の羽をまとい、頭の羽を逆立てて鳴く姿に

は気品が漂う。めったに出会うことがないので、車を止めて写真を撮ろうとしたら飛んで行ってしまふ。木地山のバス停前に駐車し、7:45出発。焼尾東谷の道を辿り、県境尾根の高島トレイルに9:00に合流。尾根上の駒が池を往復する。樹々は葉を落とし、森は明るい。駒が池はブナに囲まれ静寂。とても良い雰囲気、しばらく池の周辺を散策する。テントを持ち上げて1泊すればよかった。引き返して高島トレイルを進み、10:30駒ヶ岳山頂で昼食。正面には琵琶湖、裏手には木々の間から若狭湾が見える。周辺の900m台の山には昨日の雪が積もっている。さらに高島トレイルを進み、与助谷山、桜谷山を経て木地山峠に13:00。下山路に使った北谷は所々道が崩れ歩きにくい、テープの目印を辿って木地山の駐車場へ14:40着。なかなか立派なブナ林でした。なぜか氷ノ山や扇ノ山のように林床がササに覆われていないので、道から離れても歩きやすかったです。ほとんど人に出会いませんでしたが、鹿には3回出会いました。



バブさんの写真展 飯田 進 11月30日

バブさんの写真の内、蚕の一生というのがあります。蚕が孵化し、五度の脱皮を繰り返しながら、やがて繭になり、生糸になり、反物になり、着物となっていく過程を丹念にとらえた写真集です、今回何度目か忘れましたが、岡谷市の蚕糸博物館に展示されたのは、友禅の制作過程です。新潟県の十日町にある、何軒かの友禅製作所を廻って撮影されたものです。



忘年会 塩崎将美 12月2日

三宮で忘年会をやりました。



Re 忘年会 越田和男 12月2日

皆さんお歳よりも若そうでお元気そうで何より。ドングリの隣の鶯色のセーターはどなたかな。

re 忘年会 牧野 宏 12月2日

私の隣は村上与利さんで元気です。

大御影山～大日岳 山本恵昭 12月2日

高島トレイルがらみの第2弾。若狭の美浜から、大御影山へ登り大日岳を経由の周回コースへ。12月3日、早朝出発のつもりが前日の職場の忘年会で飲み過ぎて昼出発に。能登又谷林道分岐に 15:10 到着。車中泊して翌日日帰りで周回する案も頭をかすめるが、折角なのでブナ林でテント泊をということで 15:20 発。林道を歩いてゆくと約 20 分で白谷コース登山口に。谷を少し遡りすぐ右手の尾根に

取り付く。この辺り道ははっきりしないが、尾根上に出るとそれなりの踏み跡がありシャクナゲ混じりブナ林をひたすら上る。17時過ぎまでは行動できると計算していたが、時雨混じりの黒い雲が予想以上に夕闇を早める。16:30 そろそろ行動打ち切りかと思う頃、尾根上標高 550m 付近に平坦な所がありテント設営。



サルが不審者侵入とギアギアと騒いでいる。4日 7:00 発。相変わらずブナ林の急登をひたすら標高を上げていく。下草が少なく、気分は爽快。やがて傾斜が緩むと草原状となり、視界が開ける。琵琶湖が朝日に輝き、遠くには雪をまとった白山、北には日本海。高島トレイルに合流し大御影山に 8:30 到着。古道の近江坂とのことで、道は深くえぐれて展望を損ねる。ただ歩くだけでは面白くないので、時々道を外れて森を徘徊。三重嶽分岐に 10:00。ここからは高島トレイルから離れて進路を北に取り、いよいよ今回の目的の大日尾根へ。この辺りで特に立派なブナ林があるという。北の聳える大日岳が冬の季節風を遮り、ブナの巨木がすんなりと育っている様子。行けども行けども明るいブナの森を楽しんでいると、急に視界が開け木々が伐採されている。11:00 そこが大日岳山頂であった。送電線の保守のためか、巨木が切り刻まれて横たわっている。しばらく切株巡り。ここからは送電塔沿いの道を下って林道へ 13:00。駐車場所に 13:20 着。なかなか立派なブナ林でした。そして、シカとサルとハイタカ以外、誰にも出会わず静かな山でした。切株の年輪を数えてみると、ボールペンの長さでちょうど

30年でした。大きな切り株は樹齢200～300年ほどか。それだけ生きてきて、バツサリと。何とか切らない選択肢はなかったのでしょうか。残念！お願いしますよ、関電さん。

「二楽荘のまぼろし」 越田和男 12月18日
本日の日経夕刊一面のコラムに甲南大学教授田中貴子氏の題記エッセイあり。昔、二楽荘の焼け跡で遊んだことを懐かしく思い出しました。記事添付します。

二楽荘のまぼろし

田中 貴子 甲南大学教授

田中貴子氏の題記エッセイ。二楽荘の焼け跡で遊んだことを懐かしく思い出しました。記事添付します。



あすへの話題

2011年12月18日

(無題) 福田信三 12月23日
越田さん、二楽荘の情報、久しぶりですね。旧甲南高校の裏手の山の中腹にあったようです。焼ける前は立派なインド風の建物で写真が残っています。



またここへ登っていく軌道は日本で最初のケーブルカーといわれています。現在この辺りは新興宗教、霊法会の仏舎利塔が建ち聖地になっています。阪急岡本～御影間、住吉川鉄橋辺りから見えます。ところで、近くを流れる住吉川流域には昭和13年の阪神大水害の前には、多くの水車小屋が建ち菜

種油の油絞、酒造の精米、素麺の製粉などの機動力となっていました。その数も80機もあり、水車の大きさは直径6mもあったとか。住まいの近場にも興味深い歴史がありますね。

藪内君を偲んで 平井幹男 12月30日
今日、要の呼びかけで総勢15名がお墓の前に帰りました。献杯、黙祷の後、六甲道まで下り居酒屋で藪内君の偲ぶ会を行いました。いろいろな思い出話の後、参加したメンバーに今後も山岳会への協力をお願いしてお開きになりました。



西伊豆・金冠山

越田和男 12月31日

暮れのひと時、どこかの山頂で富士を眺めたいもの、西伊豆は金冠山 816m に登った。私の好きな山頂10選に入るこの頂きからは、駿河湾越しに、沼津アルプス、愛鷹連山、富士の南面、そして南アルプスを一望できる。しかも戸田峠に駐車すると、老いぼれ杖頼りの私の足でも 30 分以内で登頂出来る。最近雨男を返上したので、この日も快晴、たっぷり景観を楽しんだあとは、日は当たるが風当たらず、の取っておきのランチスポットで、コンビニ・サンドと赤ワインを楽しんだ。皆さん良いお年を！



木曽駒が岳と宝剣岳

山本恵昭 平成 31 年 1 月 4 日

思い立って、3 日夜発でサクッと木曽駒が岳と宝剣岳に登ってきました。ロープウェイ利用、標高を金で買う！宝剣岳では久しぶりにちょっと緊張。良い刺激でした。



雪見会の皆さんへ

越田和男 2月2日

梅池・前田館にご参集の皆さんへ。雪深い山里で旧友相集い多いに楽しんで下さい。今年も飯田に誘われてたけど、何だかんだと行き難い状況に陥り、失礼してます。ところで北陸はドカ雪だというのは、ここ関東では快晴続き。先日静岡の里山に行ったところ、富士の南面にほとんど雪なく、真っ黒けなのにびっくりしました。1 月の終わりにこんなのは初めてでした。



Re 雪見会の皆さんへ

山本恵昭 2月3日

皆さん、日頃の行いが良いので、良い天気です。夜は「大雪溪」を飲みながら、楽しく宴会！



Re 雪見会の皆さんへ

塩崎将美 2月3日

鹿島、五竜、白馬三山。今年の雪見会は神大から2名山本君の娘さんを入れて11名で少し寂しい集会でした。メンバーの高齢化でだんだん参加者減ってます。皆さん来年は参加してください、山を眺めて温泉に入り宴会、楽しいですよ。



雪見会のお礼 山本恵昭 2月4日

飯田さま、雪見会参加の皆様今年もありがとうございます御座いました。親子で楽しませていただきました。娘とスキーをするのは、以前娘が参加させて頂いた中3の時以来です。土曜日はゲレンデで様子見。日曜日は天狗原の下までハイクアップし、山スキー。中3のときもここまで連れて上がりましたが、その時と比べると少し余裕がありました。下山し私が帰った後、大雪の中、独りで再びゲレンデスキーを楽しんだそうです。



有馬四十八滝 山本恵昭 2月14日

11日月曜、朝から雪が降っていたので、有馬の四十八滝に行ってきました。ロープウェイ下駐車場に車を止めて、いくつかの谷を上ったり下ったり。雪は積もっているのですが、残念ながら滝は氷結して

いませんでした。極楽茶屋近くのイヌナ林は霧も出て幻想的でした。



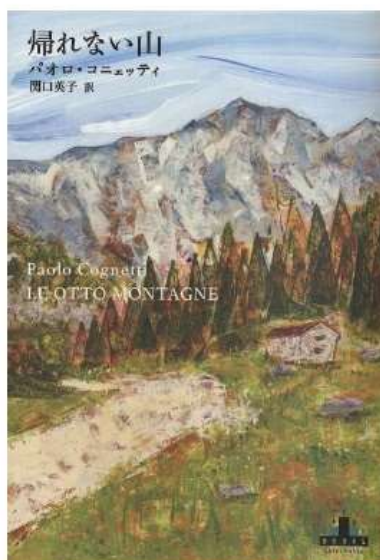
保久良神社観梅会 井上知三 2月17日

昨日、保久良の観梅会に参加の皆様ま【安井・塩崎・山本恵昭】お疲れさまでした。幸い天候にも恵まれ楽しい時を過ごしました。しかし今年は参加人数が少なく少し寂しい感じでしたが、美酒とご馳走を楽しみました。その後、梅林を後に8丁目居酒屋に柏・石原・浪川先輩たちも加わり、安井先輩と奥様の手料理で時の経つのも忘れ話に花が咲きました。奥様、今回も美味しい料理ありがとうございました。



ボルダリング 塩崎将美 2月17日

孫がやりたと言うので連れてきました。神戸の和田岬 MIZUNOSPORTSPLAZA



山の本『帰れない山』

越田和男 2月23日

パオロ・コニエッティ著 関口英子訳

『帰れない山』

新潮社 2018年10月 2050円(税別)

こんな山の本は如何ですか。登攀記でもなく、探検紀行でもありません。北イタリアの山間の限界集落のようなところが主な舞台。山好きの父親に育てられた都会(ミラノ)育ちの少年と、山里育ちのながらも知性的かつ野性的な少年の長きにわたる交友物語です。著者の私小説とも受け取れる筆致ですが、私にはいちいち納得のいく、清々しい読後感を与えてくれました。

平井センキチが雨さんに伝え、それを雨さんから聞き及んで読んでみた次第です。甲南の諸姉諸兄にお勧めします。

(無題) 平井吉夫 2月24日
『帰れない山』。私は特に山歩きの描写に深い一体感と親しみを覚えました。

マウントクック 福田信三 3月3日
20年ぶりのニュージーランド南島フッカーヴァリーをトレッキング。



Re マウントクック 山本恵昭 3月3日
福田信三様ニュージーランド、きれいな青空、いい天気ですね。うらやましい。昨年3月に私が訪れたときは、雨また雨、大雨でした。日頃の行いの違いでしょうか。

氷ノ山神戸大ヒュッテ 山本恵昭 3月3日

3月2日3日神戸大ヒュッテ泊りで氷ノ山に行ってきました。神戸大山岳部の学生OBさん+日本山岳会関西支部13名で、総勢21名。当初、山スキーでハチ高原まで行く予定でしたが、今日雨予報だったので昨日の間に山頂を往復して、雨が降る前に下山しました。余りに雪が少なく、スキーはやめにして、持っていったワカンも使わず、登山靴のままザックザックとどこでも歩くことができました。例年だと小屋の1階は埋まっていた掘り起こして入るのですが、今年はそのまま入ることができました。氷ノ山国際スキー場も今日で営業終了とのことでした。この異常な雪の少なさでは、スズコの季節がかなり早いかも。



ミルフォードサウンド 福田信三 3月6日

ミルフォードサウンドクルージング自然は変わりませんが観光状況は20年前と様変わり。今回は朝からのガスも晴れ雰囲気がいっぱいです



槍ヶ岳飛騨沢スキー 山本恵昭 3月28日

3月26日27日、定年退職記念登山(と言っても再任用でまだ働きますが)で、槍ヶ岳飛騨沢を滑ってきました。10年ほど前の3月末に試みたときには、時ならぬ大雪で膝ラッセル。1日目は滝谷避難小屋までしか辿り着けず、2日目は飛騨沢途中で時間切れとなり敗退しました。今回は2回目のチャレンジ。果たして、槍の女神は微笑んでくれるのか。

(以下省略)

.....

(本誌の「山行・紀行」に寄稿があります。巻頭ページをお楽しみにご覧ください。ここでは書き込みのやりとりを掲載いたします。担当)

槍ヶ岳飛騨沢スキー 福田信三 3月30日

山本さんドキドキしながら読ませていただきました。パワーと度胸、超人的ですね。

Re 槍ヶ岳飛騨沢スキー 山本恵昭 4月3日

たまには、自分にプレッシャーがかかる登山もいいですね。山に連れて行った犬が耳をピンと立てたように、神経が研ぎ澄まされた気がします。これからは、山菜の季節です。家の裏山では、すでにタラノメが収穫できました。ロックガーデンのコシアブラ、氷ノ山のスズコと、最適なタイミングを予測しながら忙しくなります。

自然派 福田信三 4月4日

ふーん、山本さんは自然派そのものですね。私なんか、自然を見る派、せいぜい感ずる派で浸るまでは出来ません専ら山本レポートを楽しませていただきます。よろしく。

年会費のご案内

甲南山岳会は会員の皆様からの応援と会費で運営されています。

卒業以来ご無沙汰のメンバーも状況が整えばいつでもご参加いただけるよう、できるだけ「門は広く・敷居は低く」を事務局一同心がけております。会費につきましても遡りなしに現年度の納付をお願いしており、金額も昭和55年から据え置いております。

会員諸兄におかれましては諸事情をご賢察のうえ、会費納入に一層のご理解をお願いいたします。

会費年額 4,000円

「山嶽寮」は会費をご負担いただいた方を中心に

お届けしています。

編集後記に代えて

寄稿のお願い

皆さんからの原稿をお待ちしています。

最近の山旅、学生時代のこと、行事に参加して、などジャンルを問いません。

最近山に行っていないからムリ、とお思いの方。

甲南山岳会は若い時に一緒に山に登ったメンバーの仲良しクラブ、と私は思っています。

仲良しクラブの会報です。

山以外の原稿大歓迎です。

来年は貴兄からの原稿をお待ちしています。

山嶽寮 編集長 塩崎将美

原稿宛先

電話/FAX

Eメール

山嶽寮 第74号

甲南山岳会

神戸市東灘区岡本8-9-1 甲南大学内

2019年(令和元年)10月

編集人 塩崎将美

印刷 (株)春日

目次